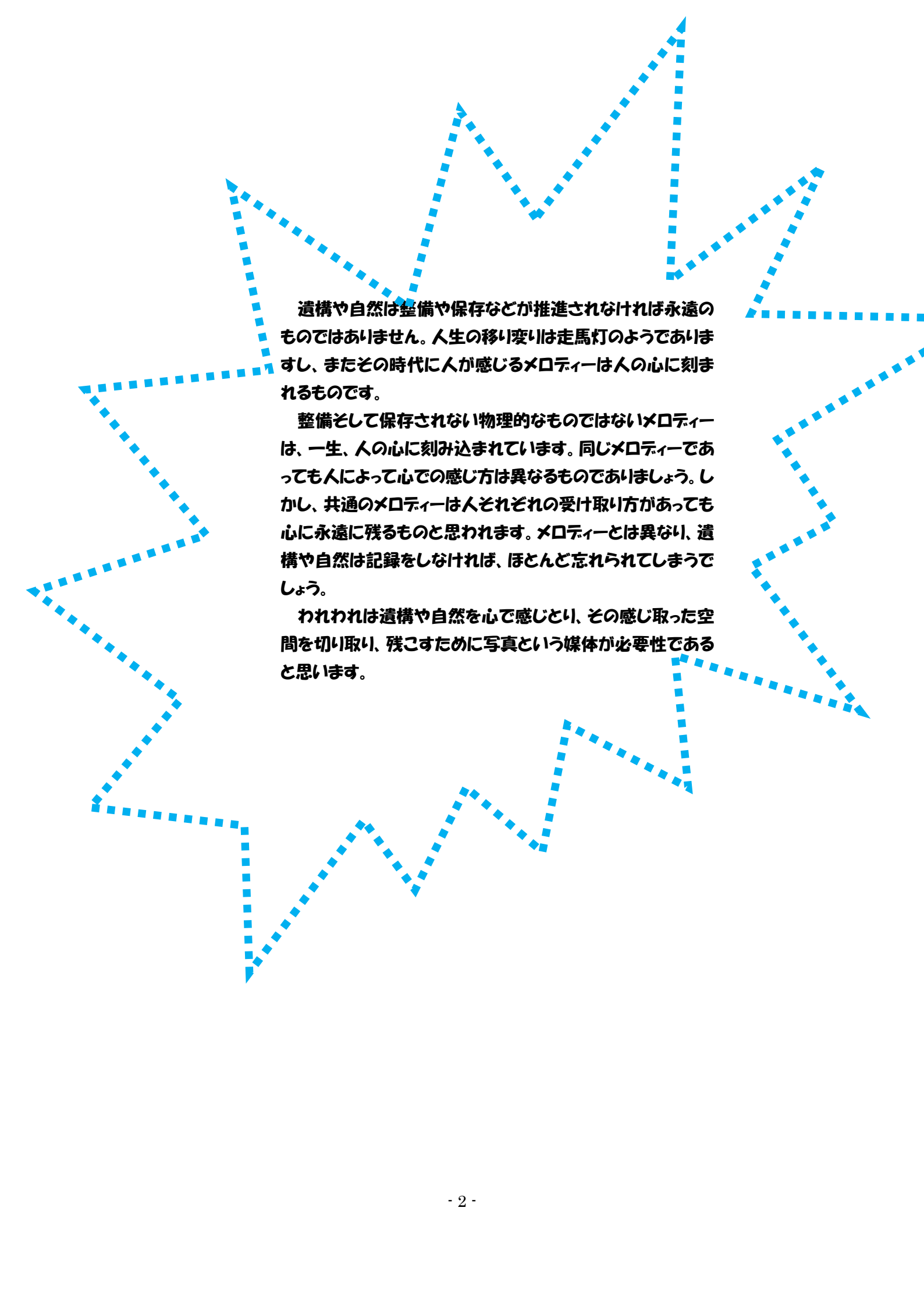


旧三瀬街道とその周辺逍遙マップ記
—伊能忠敬一行の測量から 200 年を経過して—

内山 敏典



遺構や自然は整備や保存などが推進されなければ永遠のものではありません。人生の移り変りは走馬灯のようでありま
すし、またその時代に人が感じるメロディーは人の心に刻ま
れるものです。

整備そして保存されない物理的なものではないメロディー
は、一生、人の心に刻み込まれています。同じメロディーであ
っても人によって心での感じ方は異なるものでありましょ
う。しかし、共通のメロディーは人それぞれの受け取り方があ
っても心に永遠に残るものと思われます。メロディーとは異
なり、遺構や自然は記録をしなければ、ほとんど忘れられて
しまっしょう。

われわれは遺構や自然を心で感じとり、その感じ取った空
間を切り取り、残こすために写真という媒体が必要である
と思います。

はじめに

筆者は、これまで『早良逍遥マップ記―歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ―』（2003年）、『続早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―』（2005年）、『福岡都市圏歴史散策マップ記』（2009年）および『福岡（筑前）およびその関連地域の歴史散策マップ記―とくに高取焼および元寇を例とした「まちおこし」のための文化・歴史について―』（2011年）の4冊を上梓いたしました。上記2冊のタイトルの『早良・・・』は現在の西区、早良区および城南区の史跡・名勝を取り上げています。『福岡都市圏・・・』は現在の東区、中央区、一部の早良区、那珂川町および太宰府の史跡・名勝や福岡3私塾の関係を上げています。『福岡（筑前）・・・』は「高取焼」の発祥の地である現在の直方市の宅間釜跡からの現在までの系譜、大分県の豊後高田市、佐賀県の塩田地区（嬉野市）、埼玉県の小江戸（川越市）および群馬県の高崎市などを「まちおこしの事例」として取り上げています。筆者が調査・研究した情報等は、大学での公開講座、他の教育機関での講座および多くの市民講座などで地域への還元ということを目標として講演してきました。

ところで、上記2冊のタイトルの『早良・・・』には太閤道、旧唐津街道、旧早良街道（板屋道）および旧三瀬街道があり、旧唐津街道だけではすでに他の研究者のよって公刊されていますので部分的な解説しかおこなっていません。旧三瀬街道につきましては、まずその街道沿いの史跡・名勝を、つぎに『福岡（筑前）・・・』では黒田藩御用窯であった高取焼について詳細に記述していますが、旧三瀬街道において体系的な記述をおこなっていませんでした。

本書は、「古（いにしえ）」からの重要街道であったということですが、近年は県道（飯場・金武線の562号線）として存在しているにも関わらず、忘れられた存在の街道であります旧三瀬街道を調査研究し、その成果を公表したいと考えてきました。それは街道が「古」からの人々の往来とともに「物」だけでなく「希望」や「夢」などとともに移動していったと推察されるからであります。それゆえ、本書は旧三瀬街道沿線の史跡・名勝等を体系的にまとめ、それから見えてくるものを読者に提供したいと考え上梓しています。読者の皆様は、本書をお読みいただくことによりまして、それぞれ個々人の記憶の思いが喚起されることを願っています。

なお、本書を含めたこれまで上梓のタイトルの『・・・逍遥マップ記』の意味は、“タイトルとなっているところを気ままにぶらぶら歩き、そこにある史跡・名勝等とともに独自のマップと歩数を記録し、解説をおこなう”ことを目的としています。

☆ 本書では、参考文献をあえて重複して掲載しています。読者の皆様の便利さのために、各部ごとや、各部の項目にも必要に応じて参考文献を掲載しています。そして、全体的な参考文献もまとめて掲載しています。

はじめに

目次

第Ⅰ部 旧三瀬街道の全体マップとその解説

1. 各書籍による旧三瀬街道の記述

- (1) 『早良郡志』による旧三瀬街道の記述
- (2) 『筑前國續風土記』による旧三瀬街道の記述
- (3) 『筑前國續風土記拾遺 下巻』による旧三瀬街道の記述
- (4) 『筑前國續風土記付録 中巻』による旧三瀬街道の記述
- (5) 『筑前名所図会』による旧三瀬街道の記述
- (6) 『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌 (六)』による旧三瀬街道の記述

2. 旧三瀬街道マップと万歩計による歩数

第Ⅰ部の参考文献

第Ⅱ部 旧三瀬街道起点周辺の高取焼マップとその解説

1. 現在の東皿山跡と西皿山跡の一部の図

2. 1900 (明治 33) 年頃の福岡西新町皿山周辺図

3. 2011 (平成 23) 年の地図に 1900 (明治 33 年) 頃の福岡西新町皿山周辺を重ね合わせた図

第Ⅱ部の参考文献

第Ⅲ部 旧三瀬街道沿いの歴史的史跡・名勝とその解説

1. 堀の内城址、松尾大膳碑

2. 橋本八幡宮、吉武高木遺跡、都地城址

3. 飯盛神社、文殊堂、飯盛山城址

4. 瀧田紫城 (折衷塾跡の碑)

5. 金武ヤマモモの木、夫婦塚古墳、結城兵部少輔の墓

6. 金武城田古墳、浦江装飾古墳、金武青木遺跡

7. 真教寺、曲淵城址、曲淵神社、五輪の塔、曲淵城主の墓

第Ⅲ部の参考文献

第Ⅳ部 伊能忠敬一行が測量したもう一つの街道

第Ⅳ部の参考文献

おわりに

全体的な参考文献

著者紹介

第 I 部 旧三瀬街道の全体マップとその解説

旧三瀬街道は現在の佐賀市内の旧長崎街道（日新小学校内にある築地反射炉跡、のこぎり型家並み等）と接続されており、江戸時代の長崎勤番へと出向く筑前（黒田）藩士の往来もこの街道を通ったと推察される。旧三瀬街道とはどのような街道であったかという情報はほとんどない。わずかに伝承としての情報では「江戸時代は主として福岡から塩や干物など加工海産物を、佐賀からは米や木炭などを運ぶ主要な道として利用されていたということと、伊能忠敬一行がこの街道の測量をおこなったとの記述があり、2013年10月23日が200年の記念にあたる。」ということである。そこで、以下に示す『早良郡志』、『筑前國續風土記』、『筑前國續風土記拾遺 下巻』、『筑前名所図会』および『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌（六）』に掲載されている旧三瀬金武宿、飯場峠および飯場宿の記述を掲載した。これらの記述で一番古い時代から見えてくることは「旧三瀬街道」が曲淵氏の家臣の時代からで、これから言えることは戦国時代（1500年代）からこの道が開かれたとのことで、江戸時代になってから交通量が増えて重要な道となっていたと思われる。それは、江戸時代になり、この街道が筑前から肥前への最短ルートでまた長崎街道へも通じているということで、他国の旅行者や飛脚などの通行が絶えなかったとのことである。そのようなことで、飯場宿が宿駅であっても山間部の小さい村であったために宿駅としての機能（人馬の調達など）を果たすことが出来ず、ついには寛政年間（1789～1801年）に地元民の願い出によって通行が原則禁止となっている。しかしながら、歴史的な記述があるように地元民などの道としての役割を果たしていたものと思われる。それは金武宿には醸造関係などの蔵が多く存在し、金武から福岡に往く現在の次郎丸旧道入口には蹄鉄屋があったとの伝承があるためである。

旧三瀬街道が決定的に現在のように廃道に近い状態になったのは、1923（大正12）年に完成した曲淵ダム（福岡の産業遺産）によって現在の263号線が整備され人の通行が安全になったことと、モータリゼーションの進行で運搬が楽になったことでこの街道の利用価値がなくなったことと思われる。

1. 各文献による旧三瀬街道の記述

福岡藩の街道は、丸山雍成『日本近世交通史の研究』の1章2節の福岡藩領の街道として、「1795（寛政7）年の6街道と27宿駅の人馬賃銭」の研究のなかで、宿駅について次のような説明をおこなっている。すなわち、

- ①筑前六宿街道（小倉を起点に肥前を經由し長崎へ：筑前は6宿駅ある。）
- ②唐津街道（小倉を起点に福岡を經由し唐津へ：筑前は11宿駅ある。）
- ③日田街道（博多を起点に日田へ、そこから分岐道の宿駅である宰府を經由し小石原へ：6宿駅）

- ④秋月街道（小倉を起点に川原を經由し猪膝まで筑前六宿街道に沿ってあるが、秋月街道は猪膝を起点とし大熊經由し千手へ：1宿駅）
- ⑤篠栗街道（博多を起点に金出經由し飯塚へ：1宿駅）
- ⑥三瀬街道（福岡を起点に三瀬へ：2宿駅）

があり、6街道の宿駅は計27宿駅であるとのことである。これらの宿駅のうち、筑前六宿街道の山家宿駅は1611（慶長11）年に開かれたといわれ、六宿すべてが開かれるのは山家宿駅が開かれてから16,7年経ってからとのことである。参勤交代が一般的になり、藩内の交易が盛んになるにつれてすることなどによって宿駅が開設されていくことになる。しかしながら、一般的に言われている筑前の宿駅は21宿である。

ところで、旧早良郡には、福岡藩6街道のうち唐津街道および三瀬街道があり、宿駅は前者が姪浜および後者が金武と飯場（当時怡土郡）それぞれある。これらの街道の他に、早良郡には旧早良街道（板屋道）という旧道がある。さらに、時代をさかのぼれば太閤道および宰府道もある。本書では早良郡内の旧三瀬街道ルートとその周辺の史跡名勝を示すことにする。

ところで、上記に記載しているように、旧三瀬街道に関する記述がなされている書籍を以下の（1）～（6）に示すことにしよう。

（1）『早良郡志』による旧三瀬街道の記述

内野村に通じている県道は、金武村境の宇土峠より、飯場・曲淵を經由して三瀬峠を越えて、佐賀県神埼郡に通じている道である。この街道の龍峠は峻険のため、車場の交通が頗る困難であると住民が訴えている（295頁）。

宇土峠（岸の卯の峠）は曲淵から金武に通じている山道で、今はこの道を通る人は甚だ少ない。この峠は曲淵氏当時の家臣青木三郎右衛門が農業に励んで富み、家畜牛馬を96頭、農業従事者304人を使って、野芥・四箇・原などでそれぞれ8町の田地を耕すとともに、他の村にも多大の所有地を有していたということで、耕作のためや産物の運搬のためにこの道を開いて往来していたとの言い伝えがある（344頁）。

金武村には、四箇・丸・妙見崎・西山を経て、西南内野村に通じる三瀬県道がある（355頁）。

（2）『筑前國續風土記』による旧三瀬街道の記述

金武村は福岡より約3里のところにあつて、三瀬越えて肥前に行く道にある。金武村から山を越えて1里半行くと、怡土郡飯場村に着く。飯場からまた山を越えて1里22町で三瀬に着く。金武の境内に立神山という高い山があつて、この山には岩が多く存在している。金武から怡土郡河原村へゆく道があるが、この道には龍嶺がありこれを越えて河原村へゆくことになる（459頁）。

飯場は早良郡の金武から1里半の長い坂を越えて深谷の中にある村である。また、怡土郡河原村から飯場へ越える道もある。その間は32町ある。飯場村は谷の中にあるので田畠は少ない。村人は毎日薪芒を福岡に持って行って売っている。（中略）飯場は早良郡でなく

怡土郡に属しており、この村から筑前の境まで 1 里、肥前の三瀬へは 3 里あって、佐賀に行く道である (495～496 頁)。

(3) 『筑前國續風土記拾遺 下巻』による旧三瀬街道の記述

金武村は福岡から 3 里のところであり、龍峠を越えて飯場村へ、そして南山を越えて肥前国の三瀬宿へ到る佐嘉への大道である。白石は龍山 (立神山であるが、今は龍山、龍谷、龍峠などという。古文書に聖福寺領龍山とあり、村の西南の山の総称) の谷のいたるところにある奇石である (220～221 頁)。

飯場村は怡土郡の東南の隅に位置しており、山を隔てて早良郡曲淵村の谷上にある。ここは深山窮谷で、田圃は僅かに 10 町 6 反である。金武村より龍嶺を越えて 1 里 12 町でこの村へくることが出来る。この村は肥前国神埼郡三瀬村に通じている。杖立嶺 (飯場村より 1 里、三瀬より 1 里近い、道の東は曲淵村に属している) をもって肥前の境としている (319 頁)。

(4) 『筑前國續風土記付録 中巻』による旧三瀬街道の記述

金武村の西山に駒山助右衛門の長子作右衛門則弘の墓がある。作右衛門は 1730 (享保 15 年) 4 月西山の流された場所で亡くなっている。この場所は金武村から肥前国神埼郡三瀬村に往く道にある (438 頁)。

(5) 『筑前名所図会』による旧三瀬街道の記述

金武は福岡から 3 里にあり、肥前三瀬へ越すための大道であって、ここを通ることを三瀬越えといっている。また、金武村に立神という高山がある (327 頁)。

(6) 『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌 (六)』による旧三瀬街道の記述

金武の西南に龍谷山があり、これを越えると怡土郡飯場村に通じ、そこから肥前国神埼郡三瀬村に往く往還がある。連峰に荒谷山がある。この荒谷山の谷中に白石 (石灰岩) の奇石がある。それは怡土郡の水無原である (64 頁)。

(7) 「伊能忠敬一行は 1813 (文化 10) 年 9 月 26 日に 2 手に小城で分かれ、川上泊→27 日、西松瀬山村泊→28 日、三ツ瀬 (三瀬) 村泊→29 日、曲淵村泊→30 日、田村泊、10 月、1・2 日博多泊とのことであった。佐久間達夫校訂・伊能忠敬『測量日記 第五巻』(九州第二次の二) に記載されているルートは、詳細に、9 月 26 日、小城を出発→川上泊→27 日、西松瀬山村泊→28 日、三瀬村泊→29 日、三瀬峠 (新村分杖立峠) で昼休みして曲淵泊→30 日、飯場・竜峠 (飯場峠)・金武・四ヶ村經由して田村泊→10 月 1 日、田村・川原・有田村・原村・逢坂・皿山陶器・西新町・福岡城を経て博多着とのことである。より詳細は 426-429 頁を参照されたい。

2. 旧三瀬街道マップと万歩計による歩数

旧三瀬街道は現在の千眼寺の南の旧唐津街道 (高取 2 丁目) を起点として三瀬峠を經由

して肥前までを結ぶ筑前にとっては主要街道の一つである。表 2-1 は各代表的地点の現在の住所、早良郡志、筑前國續風土記拾遺および筑前國續風土記それぞれの地名を比較している。

表 2-1. 旧三瀬街道の代表的地点と現在の各住所、および歴史的書物の地名との対比

| 旧三瀬街道の代表的地点 | 現在の住所 | 早良郡志の市町村 | 筑前國續風土記拾遺 | 筑前國續風土記 |
|---------------|------------------------|------------|-----------|--------------|
| 旧三瀬街道起点 | 早良区高取2丁目 | 西新町 | 早良郡西新町 | 早良郡麩原村の内 藤崎村 |
| 新開橋 | 早良区藤崎2丁目 | | | |
| 船底橋 | 早良区原3丁目 | 原村 | 早良郡原村 | 早良郡原村 |
| 原交差点 | 早良区原5丁目 | | | |
| 有田交差点 | 早良区有田2丁目 | 有田村 | 早良郡有田村 | |
| 西校下(現:講倫館高校下) | 早良区有田3丁目 | | | |
| 次郎丸交差点 | 早良区次郎丸2丁目 | 田隈村 | 早良郡次郎村 | |
| 次郎丸の旧道 | 早良区次郎丸3丁目 | 次郎丸村 | | |
| 田村の旧道 | 早良区田村1丁目 | 田村 | 早良郡田村 | |
| 田村の旧道 | 早良区田村3丁目 | | | |
| 羽根戸道バス停 | 早良区田村7丁目 | | | |
| 松風橋 | 早良区四箇1丁目 | 四箇村 | 早良郡四箇村 | 早良郡四箇村 |
| 金武宿 | 西区金武 | 金武村 | 早良郡金武村 | 早良郡金武村 |
| 妙見神社周辺 | 西区妙見崎 | | | |
| 飯場峠 | 早良区曲淵飯場峠 | 内野村 | | |
| 飯場宿 | 早良区飯場 | 飯場村 | 怡土郡飯場村 | 怡土郡飯場村 |
| 三瀬峠 | 福岡市早良区三瀬峠 佐賀市三瀬村三瀬峠 | 内野村 佐賀県 | | |

この表 2-1 の具体的なマップと歩数を示せば、つぎの図 2-1 のようになる。

図 2-1. 旧三瀬街道（起点から飯場宿まで）のマップと歩数

マップを挿入

旧三瀬街道は西山地区から飯場宿までは登山（軽装登山で可）になるので、図 2-2 は西山登山口から飯場宿までをマップと歩数を示している。2箇所分かれ道があるが、2箇所とも右側を歩いてゆく。以下に示す写真は左から右へが歩いていった順である。

図 2-2. 旧三瀬街道（西山登山口から飯場宿まで）のマップと歩数

図とマップを挿入



旧三瀬街道起点（上：黄檗宗千眼寺）
（高取 2-3-23 付近）



旧三瀬街道起点（左右：旧唐津街道：上：
旧三瀬街道）（高取 2-3-23 付近）



船底橋



西應寺（堀の内城址：月城址）



講倫館高等学校（堀の内城址：月城址）



松尾大善碑（次郎丸バス停前）



次郎丸旧道入口右側（旧三瀬街道）



次郎丸 3 丁目



次郎丸 3 丁目



次郎丸 3 丁目



旧道左側（次郎丸団地バス停前）



田交差点付近の旧道左側



田村 3 丁目



田村 3 丁目



田村 3 丁目



旧道入口羽根戸道バス停付近
(四箇 1 丁目入口)



四箇 1 丁目



四箇 1 丁目



四箇 1 丁目



四箇 1 丁目と金武中学校の西にある
松風橋



金武宿溝口の虹の風景



金武宿説明板(筑前 24 宿のうちの
ひとつ)



金武宿



金武宿 (手前の白壁が元幾久鶴酒造場
付近)



金武宿



西山地区集落



西山地区集落



妙見社



妙見社の絵馬



妙見社の絵馬



西山集落内



西山集落内庚申塚



西山集落から県道 562 号線へ



県道 562 号線の庚申塚



西山登山口方面（この先、飯場宿）



西山登山道入口（県道 562 号線：飯場・金武線）



西山登山道入口から福岡市内遠望



登山道入口からすぐのところ



分岐（左：砂防堰堤方面、右：旧三瀬街道）



分岐をすぎた旧三瀬街道



つぎの分岐（左：林道入口（曲渕ダム方面）、右：旧三瀬街道）



側溝跡：旧三瀬街道（沢登の手前）



側溝跡から尾根までこの沢登りがつづく



尾根道



尾根道



飯場峠（最高地点の標高：382m、
左：西山方面）



飯場宿へ下り、この先急な沢降りになる。
（当時重機が入り整備中であつた）



飯場宿側の登山道出口（入口）、金網の入口は福岡市水道水源かん養施設



県道 56 号線（左：糸島峠、右：曲淵
水源地）



県道 56 号線を渡り飯場宿側の入口



飯場宿



飯場宿：松原邸（伝承：旧宿）



飯場宿の旧三瀬街道にある大山祇神社



旧三瀬街道：上国境石方面



旧三瀬街道：三瀬峠（県境）



南肥前国、北筑前国の国境石（旧三瀬峠：佐賀に向って右側の上）



南肥前国、北筑前国の国境石（旧三瀬峠）

筆者は2001年4月に初めて旧唐津街道の高取2丁目の旧三瀬街道起点から飯場峠越えて飯場宿まで歩いた。当時は写真の撮影をし忘れ、マイクロソフト社のワードによる地図のみ作成した。その後、旧三瀬街道は高取焼跡、次郎丸の旧道、金武宿とその周辺の古墳群および神社などの写真撮影をしている。ところが2001年に飯場峠に関する写真撮影を当時していなかったため、2012年5月5日(土)に西山登山道入口から登山をし、旧三瀬街道飯場峠の撮影を試みた。2012年度は曲淵・飯場地区北側の県道56号線(糸島峠付近)は豪雨などによる崖崩れのため通行止めが続いており、また飯場峠の沢の増水と倒木のため、やむを得ず、尾根の手前までの撮影をおこない引き返した。2013年9月30日(月)の毎日新聞の朝刊、その後の西日本新聞の朝刊それぞれに西区ボランティアグループ「平群(へぐり)倶楽部、金武校区まちづくり協議会、曲淵校区自治協議会」の方々が街道の枝を払い、倒木を切り、沢に飛び石および土嚢を設置、また案内標識を立てるなど街道の整備がなされたとの記事とともに、10月19日(土)に伊能忠敬測量200年(1813年10月22日から)講演会とウォーキングを実施されたので、それに参加(参加者104名)させていただいた。2001年および2012年とは異なり、驚くほど整備され通行しやすい旧街道に変容していた。また、飯場峠から飯場に降る方向は木の伐採のため重機による整備が一部なされている最中であつた。西山登山口から飯場宿の大山祇神社まで、万歩計で6000~7000歩であるのでそれほど厳しい登山ではないと思われる。しかしながら、旧三瀬街道登山道は沢の昇り降りがあるのでそれに対応する装備が必要であると感じるとともに、また峠に近くにつれて急勾配となっているので休息しながら登山することが必要である。なお、上記の登山の写真は2012年5月と2013年10月のものである。

第I部の参考文献

- 青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版, 1993.
福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版, 1973.
貝原益軒編・伊東尾四郎校訂『筑前國續風土記』文献出版, 2001.
加藤一純・鷹取周成共編・川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版, 1977.
近藤典二『筑前の街道』西日本新聞社, 1985. 55~59頁, 62~71頁.
丸山雍成『日本近世交通史の研究』吉川弘文館, 1989. 48~51頁.
西日本文化協会編纂『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌(六)』福岡県, 1995.
奥村玉蘭著・田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版, 1985.
佐久間達夫校訂・伊能忠敬『測量日記 第四巻』(九州第二次の一)大空社, 1998.
佐久間達夫校訂・伊能忠敬『測量日記 第五巻』(九州第二次の二)大空社, 1998.

第Ⅱ部 旧三瀬街道起点周辺の高取焼マップとその解説

旧三瀬街道の「起点」周辺には黒田藩御用窯および民用窯跡が存在していた。その窯跡の現在（現在の藤崎1丁目から高取1、2丁目周辺）は住宅およびお洒落な店舗、マンションが立ち並び、味楽窯を除けば、そこに高取焼御用窯そのものの面影をほとんど感じることはできない。しかし、この旧三瀬街道起点周辺の御用窯跡および民用窯には永い歴史的背景を有しており、2014（平成26）年のNHK大河ドラマ「軍師 黒田官兵衛」のなかでも若干の解説がなされている。この周辺の窯跡については、高取焼発祥から現在までの歴史的推移をまとめたものに、拙著『福岡（筑前）およびその関連地域の歴史散策マップ記—とくに高取焼および元寇を例とした「まちおこし」のための文化・歴史について—』がある。そのなかから、高取焼の歴史的背景について必要最低限の解説とマップを提示しよう。

高取焼の歴史的背景として、慶長の役に出陣した黒田長政は当時の朝鮮の韋登（イト）の陶工八山（のち高取八蔵）を、加藤清正は新九郎（八蔵の妻の実父で一時肥後南関の小代焼に従事）をともなって凱旋している。長政は1598（慶長3）年11月に豊前中津に凱旋したが、1600（慶長5）年12月に筑前に転封（国替え）を命ぜられ福岡に移城した。八山は筑前領内の鞍手郡鷹取山^{注1}（鷹取城：初代城主 母里太兵衛、二代城主 手塚氷雪）の麓である永満寺宅間に開窯（宅間窯は全長16.6mの竹割型の登り窯：直方市教育委員会主導の発掘調査より）をした。

その後、一国一城令のため鷹取城は廃城となり、この窯は頓野の内ヶ磯（内ヶ磯窯は全長46.5mの半地下式連房階段状登り窯：直方市教育委員会主導の発掘調査より）に移され、新九郎とともに製陶したが新九郎は早く没している。

寛永年間（1624～1643年）、藩主忠之の時、八蔵父子は京の伏見で茶匠小堀遠州^{注2}の下で指導を受け、茶入製作に専念している。また、唐津の浪人、五十嵐右衛門は瀬戸の陶法に通じていたが、筑前に来て、八蔵とともに高取窯で製陶をおこなっている。当時の作は遠州高取と称せられ、なかでも染川・高取見附などの茶入がよく知れわたっている。

八蔵および五十嵐の子孫は、1630（寛永7）年頃に穂波郡合屋郷中村（現在の飯塚市）の白旗山^{注3}北麓に移窯、さらに転々[小石原村の鼓（現在の朝倉郡東峰村）]として、1708（宝永5）年には早良郡鹿原村上の山に移り、ここで茶器などを作っていたが、一切は藩庁の経営であった、ここでの経営をこれを東皿山と称している。高取は慶長以後の製で、唐物同様に左糸切で茶軸の上に黒釉斑の現れたものであった。八蔵の作は朝鮮のものによく似ているが、のち狩野風の墨画のものもあった。古作の茶入には下薬はないが、五十嵐が瀬戸風を加えて以来、下薬も加わっている。

高取焼は蹴轆轤^{しゅうろくろ}で登窯を用いているが、1901（明治34）年頃、高取英一の再興した頃はゼーゲル^{注4}13番火度であった。明治以降の原料は土石数種を調合したが、釉薬は高宮（わら灰、木灰および長尾長石を配合し、焼成による発色は緑色を帯びた褐色）・道化（木灰、長尾長石および酸化鉄を配合し、まだら状の茶褐色）・布囉志（木灰および、長石を配合し、透明釉）・緑青（わら灰、木灰、長石および銅を配合し、緑色）・白（わら灰、もみがら灰、木灰および長石を配合し、白色）・黒（わら灰、木灰および酸化第二鉄（いわゆるベンガラ）

を配合し、黒褐色)・黄(わら灰、木灰および酸化鉄を配合し、あずき色に近い茶褐色)等七色の変化を見せていた。また、高取焼の一族は上座郡小石原中野で磁器を製し日用器皿を焼いている。

1741(寛保元)年に、藩は小石原の陶工である柳瀬三右衛門に西皿山(現在の高取2丁目)に開窯させた。そのときに一門の陶工である早川、中川(後の亀井)、長沼、原、梶島などの人々も移り住み、それぞれ一帯に窯を築いている。この一帯というのが旧三瀬街道周辺である。

上記でも述べているが、西皿山は東皿山とともに藩の窯であるが、東皿山は主に藩主の贈答品(茶陶、香炉および置物など)を生産し、西皿山は日用品の生産が中心であった。藩の保護がなくなった明治以降の高取焼は日用雑器、茶器、置物から産業、建設用などその時々需要に応じて製品の生産をしていっている。また、高取焼には多くの業者がいたので日用品の火鉢、水瓶、湯呑み類といった多種多様の生産がなされ、とくに陶器ポンプは九州から関西まで使用されておりヒット商品となっていた。現在、高取焼は、直方、小石原、福岡の高取と飯倉で焼かれている。

注1) 鷹取城は標高600mの山頂に気付かれた城である。この城は1046(永承元)年から城主が変遷している。黒田長政は1601(慶長6)年筑前の国守として入国すると、家老母里太兵衛友信(18,000石)の居城とした。母里が同年嘉穂町の益富城に移ったために、手塚孫太夫展連(手塚氷雪)が在城した。手塚氷雪が宅間に開窯させている。1615(元和元)年一国一城令により、鷹取城は廃棄破却された[参考文献:廣崎篤夫(1999)の215~218頁より]。

注2) 小堀遠州[1579(天正7)年~1647(正保4)年]は近江小堀村出身で、備中松山藩主小堀新介正次の子である。1604(慶長9)年父の死により、12,000石を襲封する。のち近江小室藩主。1608(慶長13)年従五位下遠江守に叙任。以後、作事奉行を多く歴任し、建築・造園の才を発揮して二条城、仙洞御所などを手がけた。1623(元和9)年に伏見奉行となる。茶の湯は古田織部[1543(天文12)年~1615(元和元)年]に学び、1636(寛永13)年5月21日に品川御殿において將軍徳川家光に茶を献じ、その茶名が天下に知られた。遠州の茶風は「綺麗さび」といわれ、綺麗にして優美、洗練された文学趣味に彩られ、桂離宮の美に通じる点が多いといわれている。また、千利休[1522(大永2)年~1591(天正19)年]風のわび茶を基本としながら唐物を多用する書院の茶を加味した。遠州は1628(寛永5)年の茶会で筑前焼を使用している。この頃から高取焼に注目し始めているとのことである。八山親子が1630(寛永7)年に伏見奉行屋敷に出向き指導を求めている。このことから遠州好みの茶道具が創作可能となったことが、遠州が高取焼を茶会でコンスタントに使用したことに通じる。遠州茶会における高取焼の使用状況は第Ⅱ部の参考文献の深谷信子(2009)の521頁を参照されたい。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名事典』新潮社，1995. 746 頁.

三省堂編集所『コンサイス日本人人名事典』三省堂，1999. 523 頁.

注 3) 白旗城は現在の飯塚市幸袋と二瀬の境界、白旗山の山頂が城址である。この山の伝承としての由来が二つある。一つ目の由来は藤原純友が反逆して失敗、筑前に逃れて来たとき、白旗を立てて勢威を示したので白旗山といわれている。また、もう一つの由来は鎮西八郎為朝が白旗を立てたので白旗山といわれている[第Ⅱ部の参考文献：廣崎篤夫（1999）223 頁より]。

注 4) ゼーゲルはドイツの陶工ゼーゲル（H. A. Seger:1839～1893 年）によって考案された高温測定具の一つ。摂氏 20～30 度おきに各階段の温度で溶解して曲がるように配合した種々の粘土製の三角錐を用いて測る。これを炉内に置けば、その溶解した錐の番号によって温度を知ることができる。

1. 現在の東皿山跡と西皿山跡の一部の図

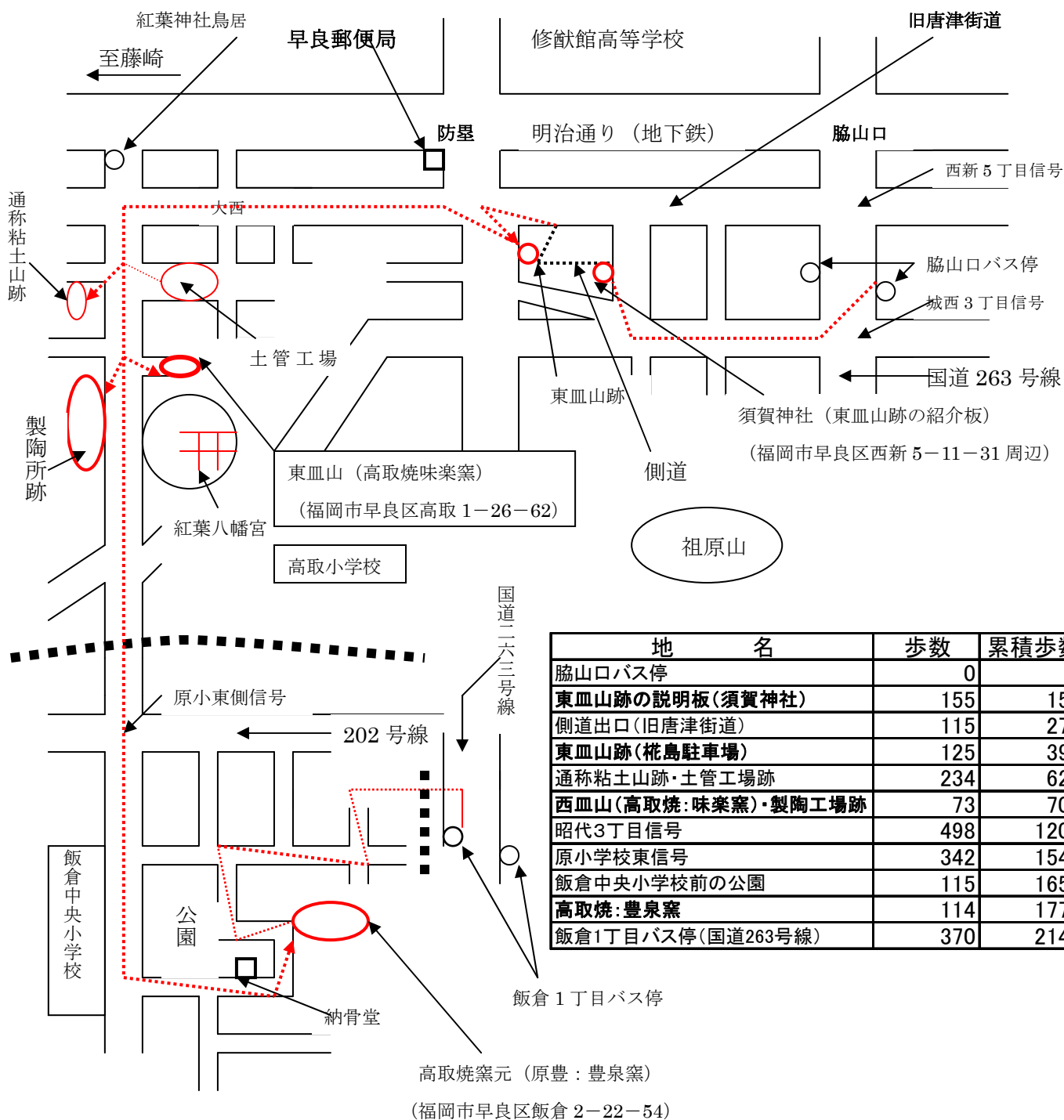
東皿山 (福岡市早良区西新 5-11-31 周辺)

西皿山 : 高取焼味楽窯 (福岡市早良区高取 1-26-62)

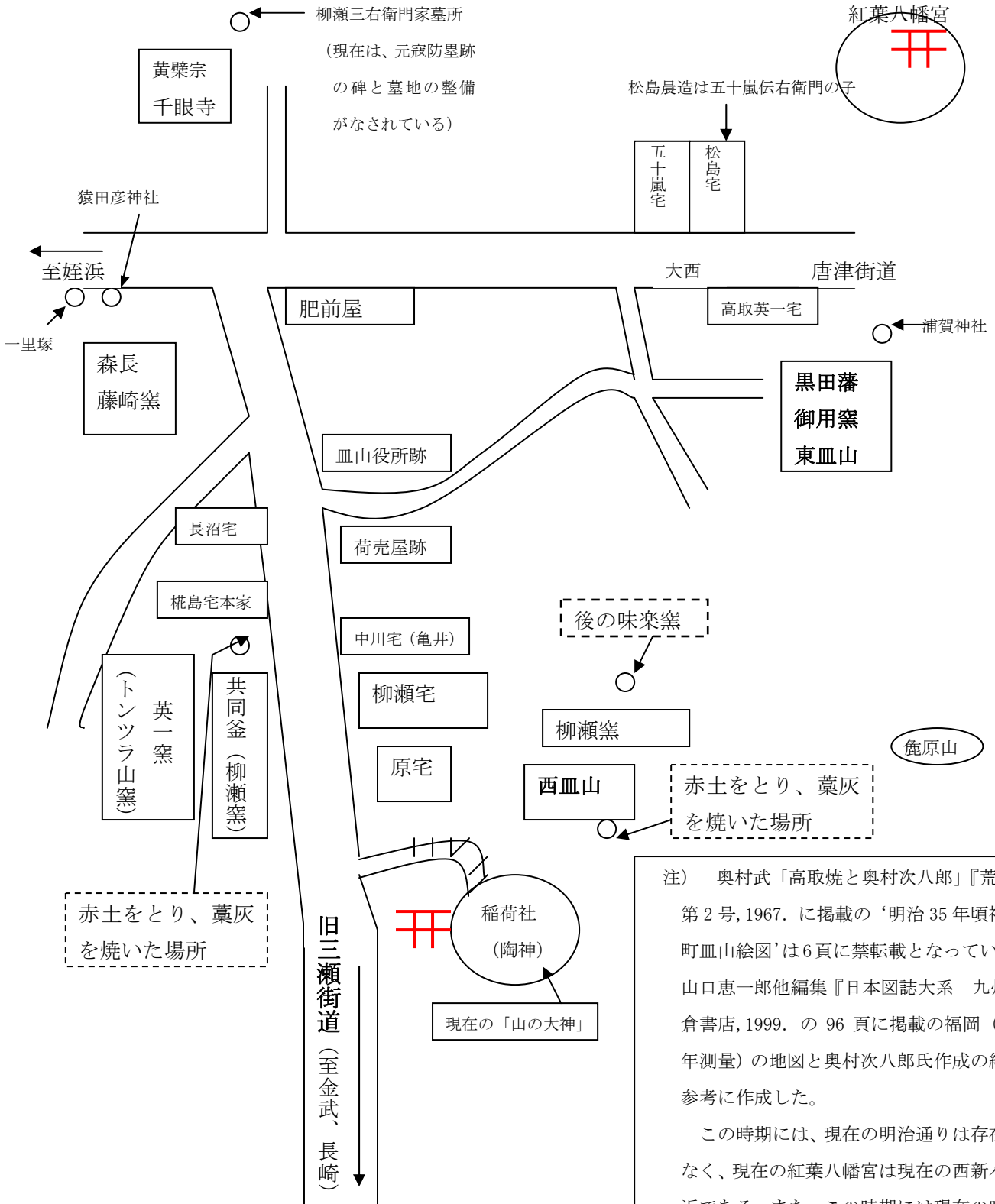
西皿山 : 旧製陶所跡 (福岡市早良区高取 2-5-4 周辺)

西皿山 : 高取焼豊泉窯 (福岡市早良区 2-22-54)

北



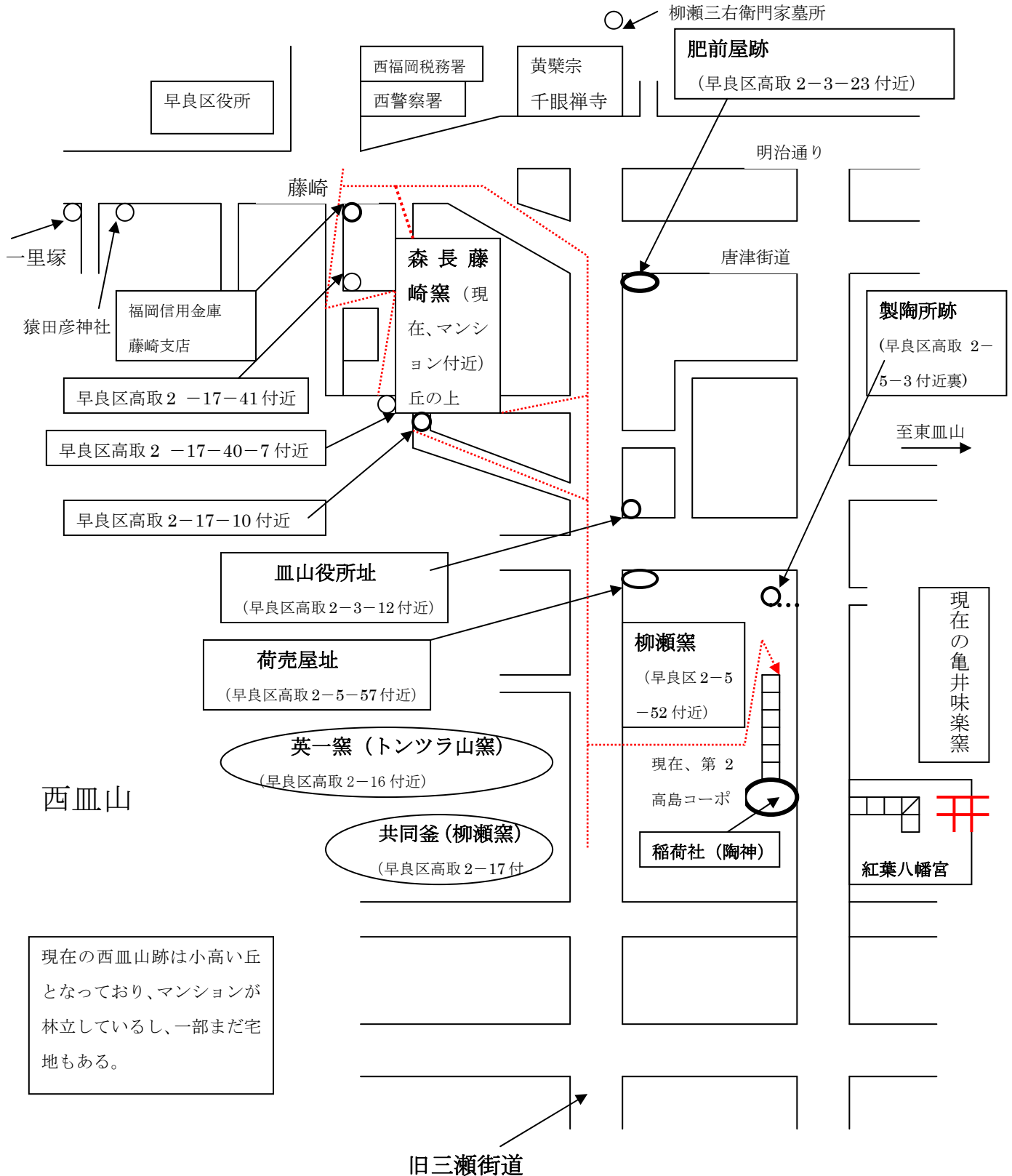
2. 1900 (明治 33) 年頃の福岡西新町皿山周辺図^{注)}



注) 奥村武「高取焼と奥村次郎」『荒津文化』第2号, 1967. に掲載の「明治35年頃福岡西新町皿山絵図」は6頁に禁転載となっているので、山口恵一郎他編集『日本図誌大系 九州I』朝倉書店, 1999. の96頁に掲載の福岡(明治33年測量)の地図と奥村次郎氏作成の絵図等を参考に作成した。

この時期には、現在の明治通りは存在していません。現在の紅葉八幡宮は現在の西新パレス付近である。また、この時期には現在の味楽窯や紅葉八幡宮前の道路も存在していません。

3. 2011 (平成 23) 年の地図に 1900 (明治 33 年) 頃の福岡西新町皿山周辺を
重ね合わせた図





大悲山 千眼禅寺（黄檗宗）
（早良区百道 1-3-6）



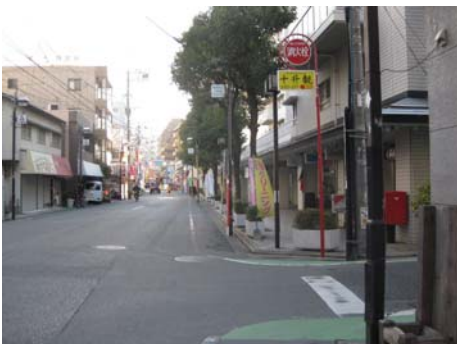
森長藤崎窠跡
（早良区高取 2-17-40-7 付近）



森長藤崎窠跡
（高取 2-17-10 付近）



肥前屋跡
（高取 2-3-23 付近）



肥前屋跡
（高取 2-3-23 付近）



皿山役所跡（左側）と荷売屋跡（右側）
（高取 2-3-12 と高取 2-5-57）



英一窯跡（奥）と共同釜跡〔柳瀬窯〕手前〕
（高取 2-16 付近と高取 2-17 付近）



柳瀬窯跡
（高取 2-5-52 付近：左上）



稲荷社〔陶神〕：山の大神〕
（高取 2-5 付近）



稲荷社〔陶神〕：山の大神〕
（高取 2-5 付近）



製陶所跡
（高取 2-5-3 付近裏）



製陶所跡
（高取 2-5-3 付近裏）



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



旧家
(高取 2-5-4、この北側小道裏に製陶品)



黒田藩御用窯 (東皿山：中西宮地嶽神社)
(早良区西新 5 丁目 14 付近)



黒田藩御用窯 (東皿山：中西宮地嶽神社)
(早良区西新 5 丁目 14 付近)



高取焼（味楽窯）
 (福岡市早良区高取 1-26-62)



高取焼（味楽窯）



高取焼（味楽窯）窯開き
 2008（平成20）年12月13日



高取焼（味楽窯）窯開き
 2008（平成20）年12月13日



高取焼（原泉窯）
 (福岡市早良区飯倉 2-22-54)



高取焼（原泉窯）

このように高取焼跡は旧家とその裏にある製陶所跡の大瓶と稲荷社〔(陶神)：山の大神〕であり、この付近は住宅およびマンション地区となっている。この地区は写真に一部写っているように丘陵地であり、しかも良質の粘土質の地区であったと想像できる。

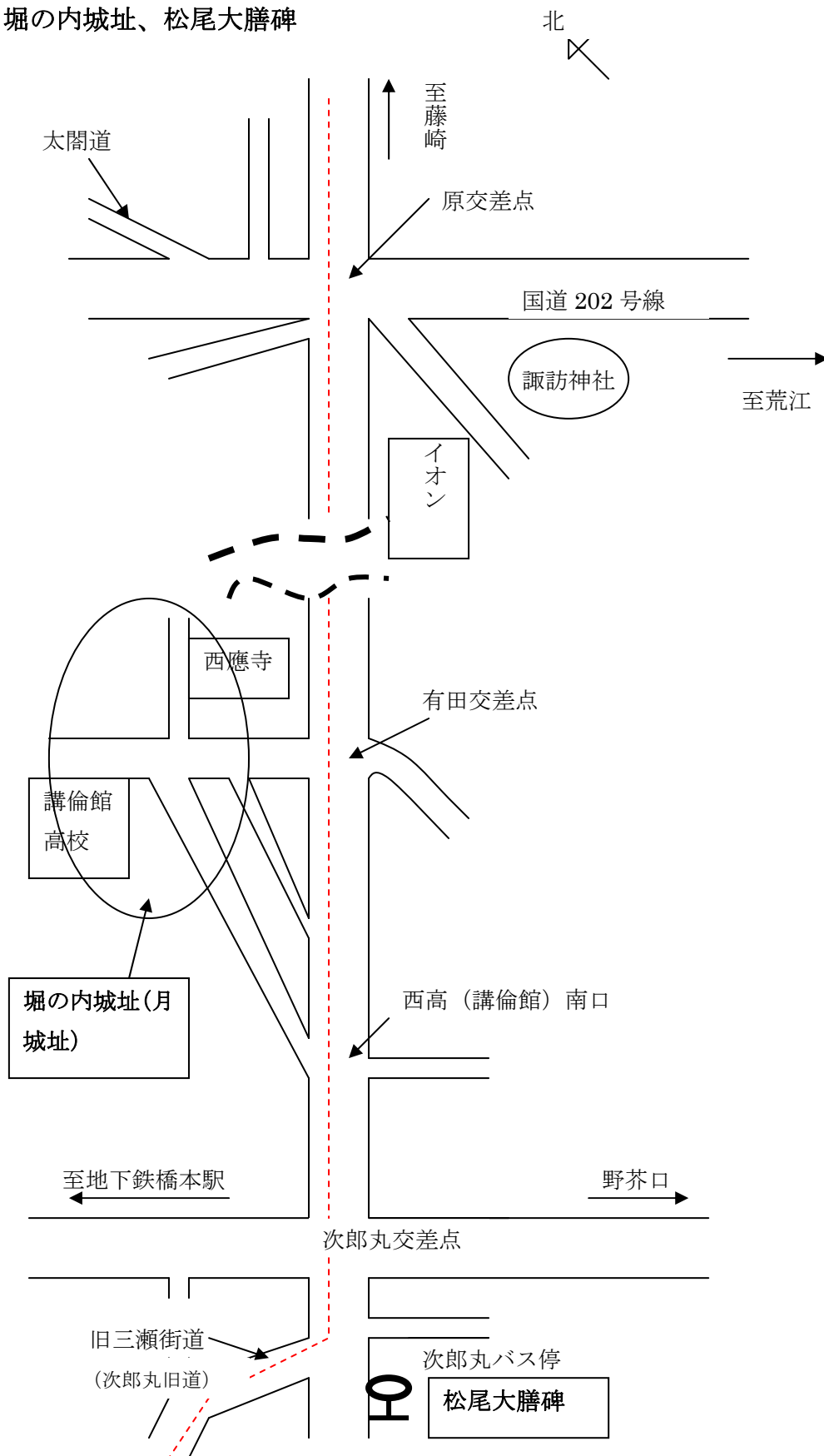
第Ⅱ部の参考文献

- 相賀徹夫編集『世界陶磁全集 7 江戸(二)』小学館, 1989. 162～170頁.
- 青柳種信『筑前國續風土記拾遺 上』文献出版, 1993. 70頁.
- 青柳種信『筑前國續風土記拾遺 中』文献出版, 1993. 339頁.
- 深谷信子『小堀遠州の茶会』柏書房, 2009. 520～534頁.
- 福岡市教育委員会「筑前国福岡城三ノ丸 御鷹屋敷(図録編)」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』, 第59集, 1990. 1～52頁.
- 福岡市教育委員会「筑前国福岡城三ノ丸 御鷹屋敷」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』, 第59集, 1990. 1～16頁.
- 廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1999. 鷹取山城: 215～218頁. 白旗城: 223頁.
- 井上精三『博多郷土史事典』葦書房, 1987. 126～127頁.
- 貝原益軒『筑前國續風土記』文献出版, 2001. 656～657頁.
- 許斐友次郎「筑前の名陶須恵焼に就いて」『都久志』第五號, 文献出版. 15～20頁.
- 永竹 威『陶器講座 第3巻 日本Ⅲ 江戸前期』雄山閣, 1971. 218～243頁.
- 中里太郎右衛門『愛蔵版日本のやきもの 五 唐津 上野 高取 萩』講談社, 1989. 20～92頁.
- 中山平次郎「高取焼最古の二窯址と其遺物」『考古學雜誌』第5巻第4號, 1914. 393～418頁.
- 中山平次郎「筑前國嘉穂郡 白旗山麓の高取焼址」『考古學雜誌』第5巻第10號, 1915. 649～659頁.
- 西日本文化協会編纂『福岡県史 文化資料編 筑前高取焼』福岡県, 1992. 1～258頁.
- 西日本新聞社編『博学博多—ふくおか深発見—』西日本新聞社, 2007. 172～173頁.
- 奥村 武「筑前国黒田藩窯高取焼窯の移動と変遷について」『大塚薬報』No.322. 出版年不明. 27～31頁.
- 奥村 武「高取焼と奥村次八郎」『荒津文化』第2号, 1972. 1～10頁.
- 紫村一重編集『直方市史 資料編』直方市役所, 1983. 528～537頁.
- 須恵町誌編集委員会『須恵町誌』須恵町役場, 1983.
- 高鶴 元『日本陶磁体系 15 上野 高取 八代 小代』平凡社, 1990年. 128～157頁.
- 陶器全集刊行會編纂『陶器大辭典 三巻 さ—ち』五月書房, 1980. 482～485頁.
- 柳 猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社, 1995. 136～144頁.

第Ⅲ部 旧三瀬街道沿いの歴史的史跡・名勝とその解説

第Ⅲ部は、第Ⅱ部で取り上げた高取焼を除く、旧三瀬街道周辺の史跡・名勝を取り上げる。旧早良郡（現在の早良区、西区および城南区）の旧早良街道、旧唐津街道、太閤道および宰府道とどのように史跡・名勝がことなるかを比較するために、旧三瀬街道とその周辺地域の史跡・名勝を取り上げ解説していく。

1. 堀の内城址、松尾大膳碑



堀の内城址（月城：早良区有田）

小田部民部大輔鎮通の里城で、現在は講倫館高等学校（旧：西福岡高等学校）となっていることである。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993年6月.261頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 123頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1995年4月. 27頁.



松尾大膳碑（早良区次郎丸）

松尾大膳については二つの説がある。一つは肥後の浪人であり、仇討ち逃れて早良に来、次郎丸に住み瓜を栽培していたが、仇敵に発見され非業の死を遂げたという説。もう一つは安楽平城主小田部氏の遺臣（前代から仕えている家来）で、落城後次郎丸に来て住みつき瓜を栽培していたが、何者かに襲われて非業の死を遂げたという説である。『早良群志』には大正時代にこの地に「白瓜」の生産額が大きいとの記述があるが、これは松尾大膳の指導が伝承されたものと言われている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月. 後編 179～180頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年11月. 53～54頁.
石津司『安楽平城物語 その1』1985年12月. 1～4頁.



松尾大善碑

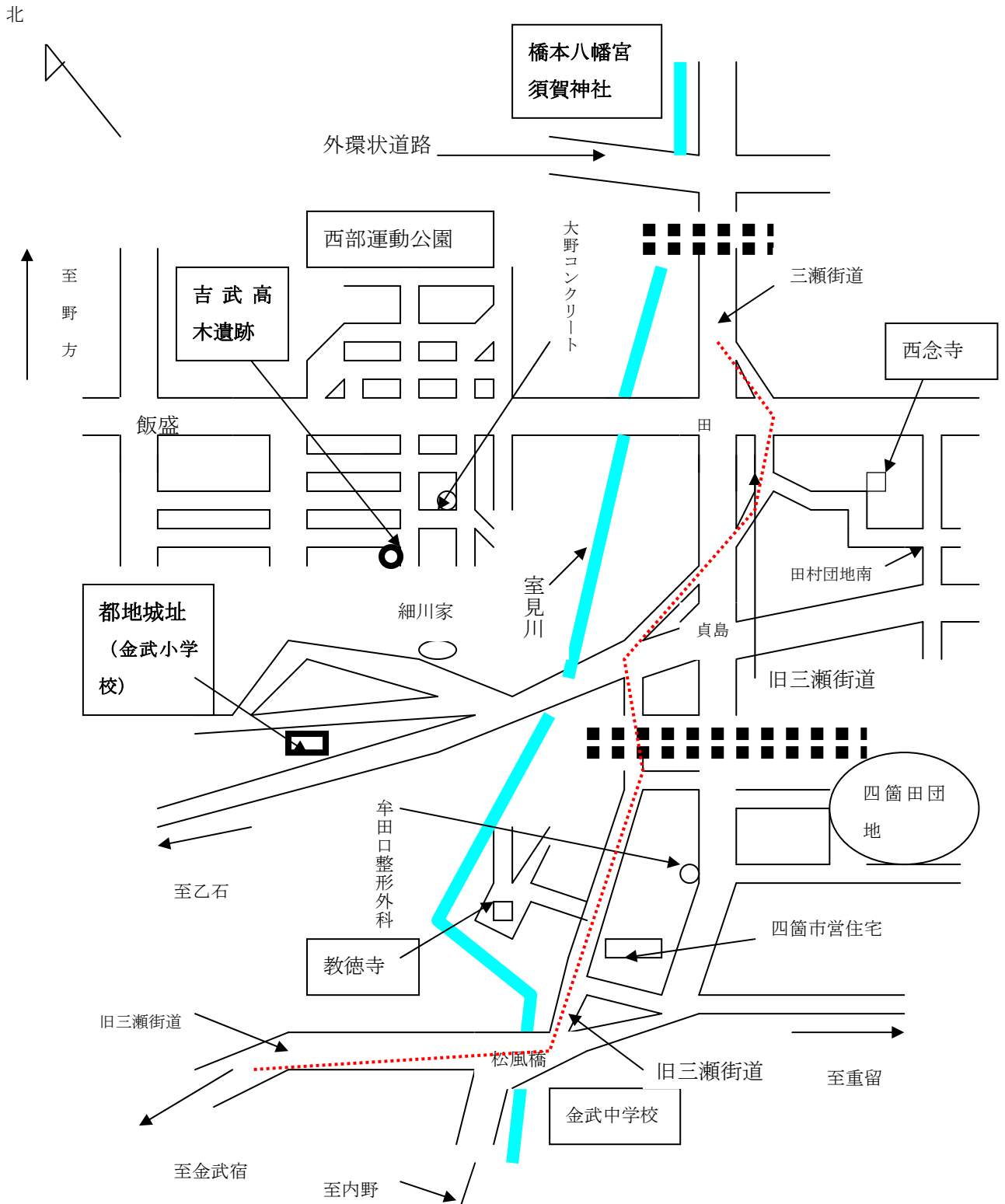
(次郎丸バス停前：早良区次郎丸4丁目2付近)

2. 橋本八幡宮、吉武高木遺跡、都地城址

橋本八幡宮（福岡市西区橋本 2-29）

吉武高木遺跡（福岡市西区大字吉武）

都地城址（福岡市西区金武 2028-1 の金武小学校付近）



橋本神社と須賀神社（福岡市西区橋本2-29）

1482（文明14）年に柴田蔵人佐繁信（しばた くらんどのすけしげのぶ）父子によって建立されたとのことである。蔵人の祖先は陸奥国（現宮城県）柴田郡の豪族かあるいは越後国（現新潟県）の柴田の人で、何らかの理由で一族郎党を引き連れて橋本に来、郷里の八幡宮の分霊をこの地に迎え社殿を建立したとのことである。当時、この八幡宮の北側に黒田藩主の別荘茶屋があり、三代藩主光之公は橋本の人を母として生まれ、この地で幼少を過ごしたとのことである。現在はこの別荘茶屋跡（須賀神社）といわれるところに「光之公誕生ヨナ埋設の地」の碑がある。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977年12月。 445～446頁。



橋本神社



橋本神社



須賀神社



須賀神社



須賀神社

吉武高木遺跡（西区大字吉武）

吉武高木遺跡は、福岡市教育委員会説明によれば、弥生時代前期末～中期前半のもので、1200 基を超える甕棺墓・木棺墓が 10 カ所以上に分かれ墓地を形成していたとのことである。もちろん、豊富な副葬品が見られたとのことである。それに注目されているのは大型堀立柱建物であるとのことである。この建物は王墓の遙拝所的機能をもつ祖霊祭祀（それいさいし）のための高殿とも、首長の館ともいわれているとのことである。

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社,1995 年 10 月. 31～32 頁.



吉武高木遺跡



吉武高木遺跡

都地城[ついじじょう]址（福岡市西区金武 2028-1 の金武小学校付近）

細川五位尉藏人光行の城址である。光行は 1532（天文元）年足利氏の命によって、九州の治安を守るためにこの地に来、若狭守と称して城を構えたとのことである。1558（永禄元）年に小田部昭叱（おたべ しょうしつ）と戦い戦死したとのことである。その後、光行の子である左近助は龍造寺隆信に協力し、小田部を討ったとのことである。小早川時代はこの地の代官となっているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月. 後編 398 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月. 福岡県城址一覧の 27 頁.



都地城主の碑（西区大字金武 2044）



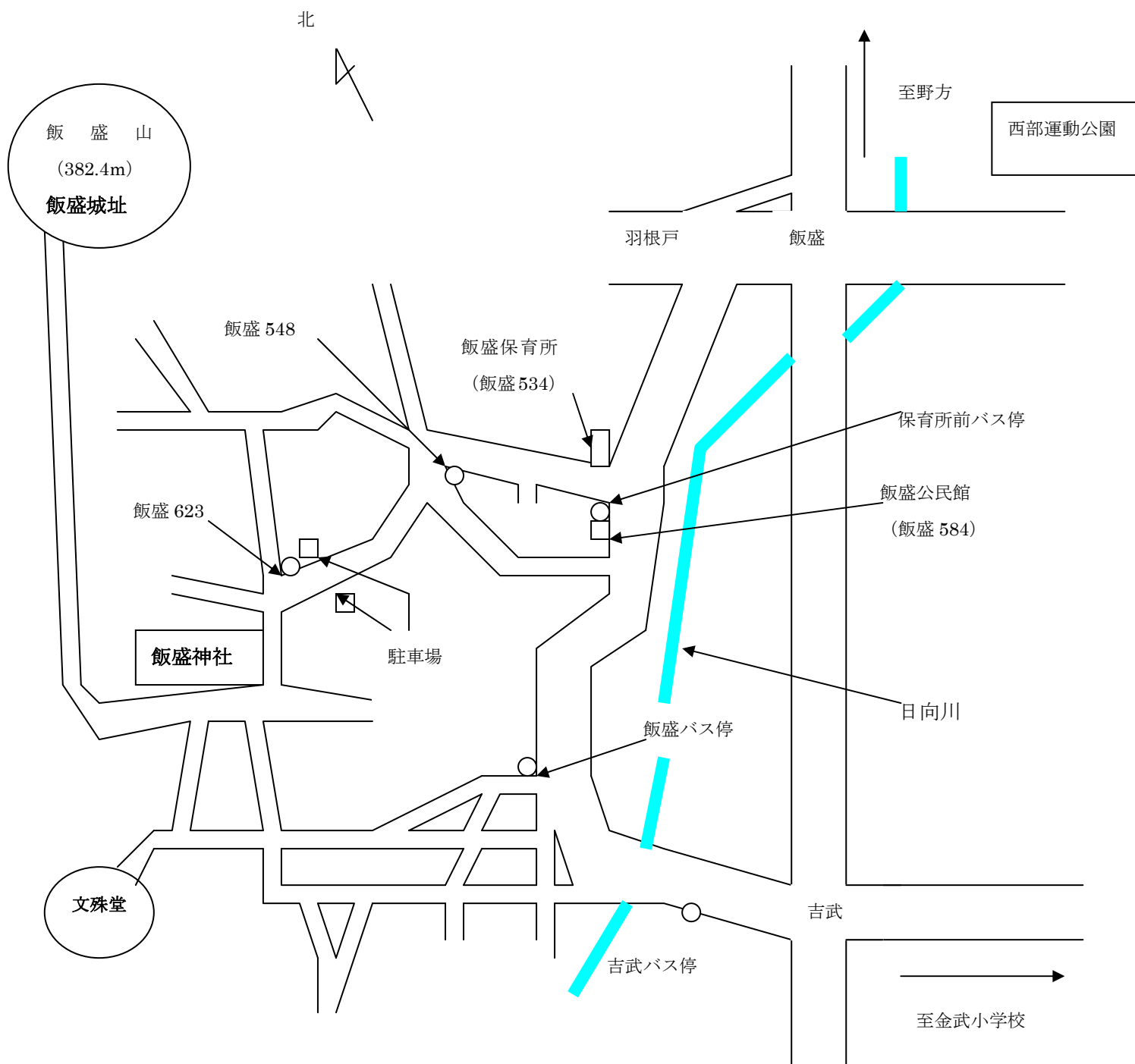
都地城址（金武小学校：西区金武 2028-1）

3. 飯盛神社、文殊堂、飯盛山城址

飯盛神社 (福岡市西区飯盛 608)

文殊堂 (福岡市西区飯盛 608 の飯盛神社から南西へ)

飯盛山城址 (飯盛神社上宮)



飯盛城址（西区飯盛:飯盛神社上宮）

飯盛山の山頂に 1391 年（北朝では康安元年：南朝では正平 16 年）に北朝方の松浦党が籠城したが、南朝方の菊池肥後守武光に攻められ落城した。その後、高祖城（たかすじょう）の原田了榮の端城になるとの記述がある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.627 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月. 後編 396～397 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月. 福岡県城址一覧の 28 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月. 208～211 頁, 527～529 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版, 1977 年 12 月.444 頁.

飯盛神社（西区飯盛 608）、文殊堂（飯盛神社から南西へ）

859（諦観元）年に清和天皇は勅使和氣清友を使わし飯盛山上・中・下神宮の再建を命ぜられたとのことで、これが飯盛神社の創建となっている。また、飯盛神社は鎌倉時代の狩り装束に身を包んだ射手が馬上から弓矢で的を射抜くという流鏑馬（やぶさめ）奉納の行事が有名である。流鏑馬は五穀豊穡（ごこくほうじょう）を願うもので、1838（天保 9）年から続く伝統行事で、市無形文化財に指定されている。

飯盛神社から左手の方にある小道を行くと文殊堂がある。その脇には「知恵」の水汲み場がある。ここに祭られている本尊は日本三大文殊堂として信仰がある。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 340 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月.458～459 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.443 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.458～459 頁. 627 頁.



田村大橋付近から飯盛山遠望



飯盛山山頂（飯盛城址）



飯盛山山頂（飯盛城址）



飯盛山上宮跡（山頂）



飯盛城址から荒平城址を遠望



飯盛城址より糸島方面を遠望



飯盛城址より福岡市を眺望



飯盛神社

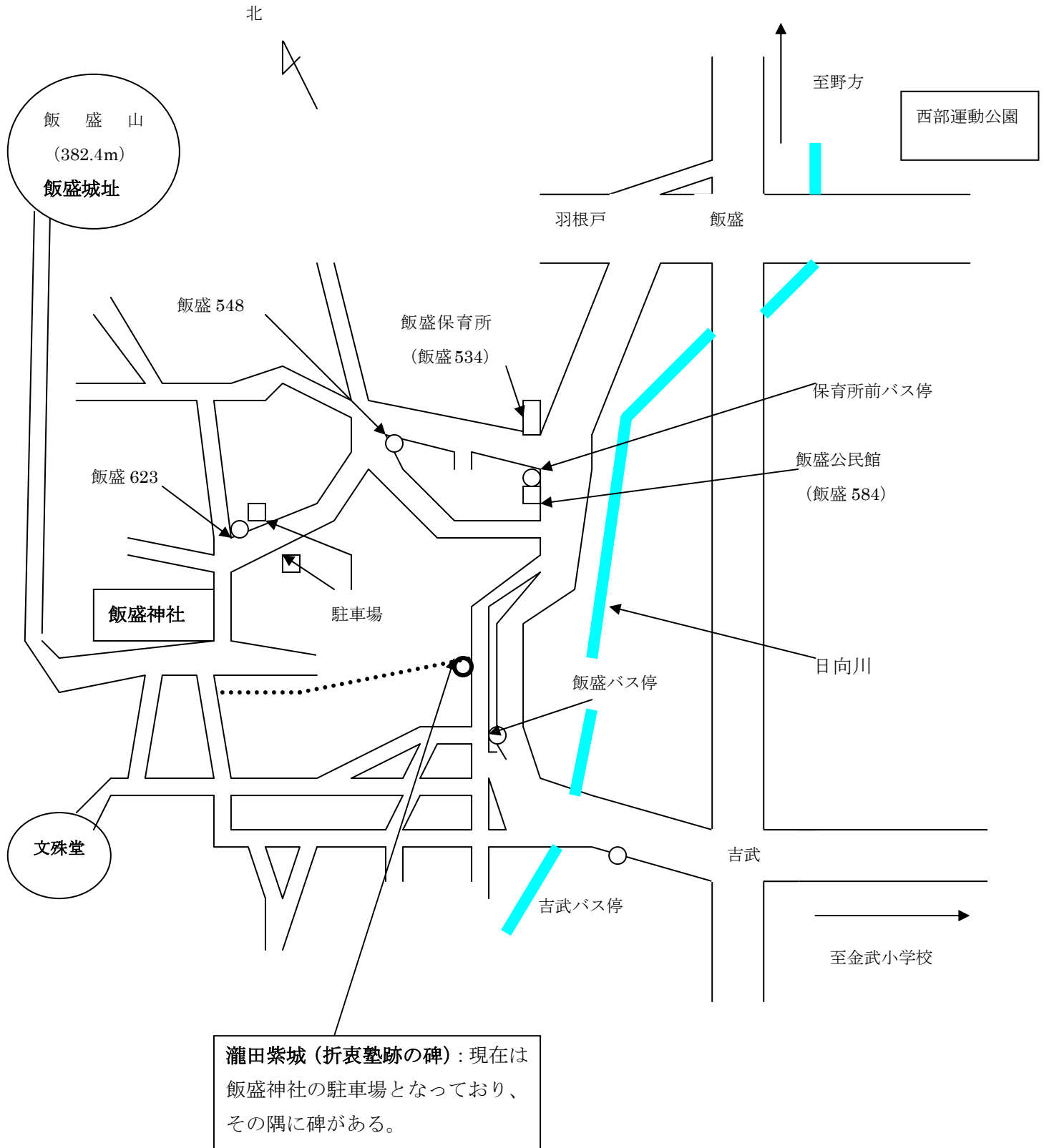


飯盛神社



文殊堂

4. 瀧田紫城（折衷塾跡の碑）（福岡市西区吉武 578 付近：現在は飯盛神社駐車場）



瀧田紫城折衷塾跡（福岡市西区吉武 578 付近）

瀧田（滝田）紫城（たきた しじょう）[1822（文政 5）～1897（明治 30）年]は幕末から明治初年にかけて、現在の西新にある修猷館高等学校の敷地内には福岡の代表的な三私塾のうちの一私塾（塾長：瀧田紫城）である「折衷塾」または「滝田塾」があったといわれている。瀧田家は下野（しもつけ：現在の栃木県）の出で、遠祖は那須与一（なすの よいち）で、その後播州（現在の兵庫県）に移り、直方黒田藩に仕えている。直方藩主の黒田継高が本藩福岡の藩主になって直方藩士の住居を西新町に移したとき、瀧田家も大西新屋敷に移り住んだということであった。紫城は福岡の西新新屋敷（現在の修猷館敷地の西側）生まれている。

瀧田紫城が 16 歳の頃、亀井南冥の孫である亀井暢州（かめい ちょうしゅう）の門に入っている。紫城が 24 歳の 1845（弘化 2）年のとき、藩主黒田斉清（くろだ なりきよ）の近侍（きんじ：主君のそば近くに仕えること）となり、江戸（霞ヶ関）の藩邸に住むこととなった。紫城は、この江戸藩邸に住んでいた頃に「折衷学（中国の唐、宋および明など各時代の学者の説を折衷した学問）」の祖である井上金峨（いのうえ きんが：江戸中期の学者）の折衷学に出会っている。紫城は金峨の『金峨文集』に感銘を受け折衷塾を開いたとのことである。紫城は幕末の福岡藩の近代化に寄与したが、福岡藩自体が新政府設立の際には寄与していなかったため紫城を含む筑前藩士は悲運を味わうこととなった。このようなことから紫城は郷土の後進の指導をおこなうこととなる。

明治初年は私塾が盛んになり、紫城の折衷塾は漢学の塾として多くの入門者を迎えている。栗野慎一郎ははじめ滝田塾でオランダ語を学び、後に長崎で英語を学んでいた。また、この塾には 16 歳の筒井乙次郎のちの頭山満がいたとのことである。

紫城は 1875（明治 8）年に現在の福岡市西区吉武（飯盛山の麓）に移り、折衷塾を開くが、その後各地の小中学校で教鞭をとり、また各地の中学校の校長を歴任しているとのことである。

柳 猛直『福岡歴史探訪 早良区偏』海鳥社, 1995 年 11 月. 152-159 頁.



瀧田紫城 折衷塾
(西区大字吉武字牛丸 581 番地)



瀧田紫城 折衷塾
(西区大字吉武字牛丸 581 番地:飯盛神社
社駐車場)



西区吉武にあった折衷塾(瀧田紫城)
の碑



西区吉武にあった折衷塾(瀧田紫城)
の碑:飯盛神社下



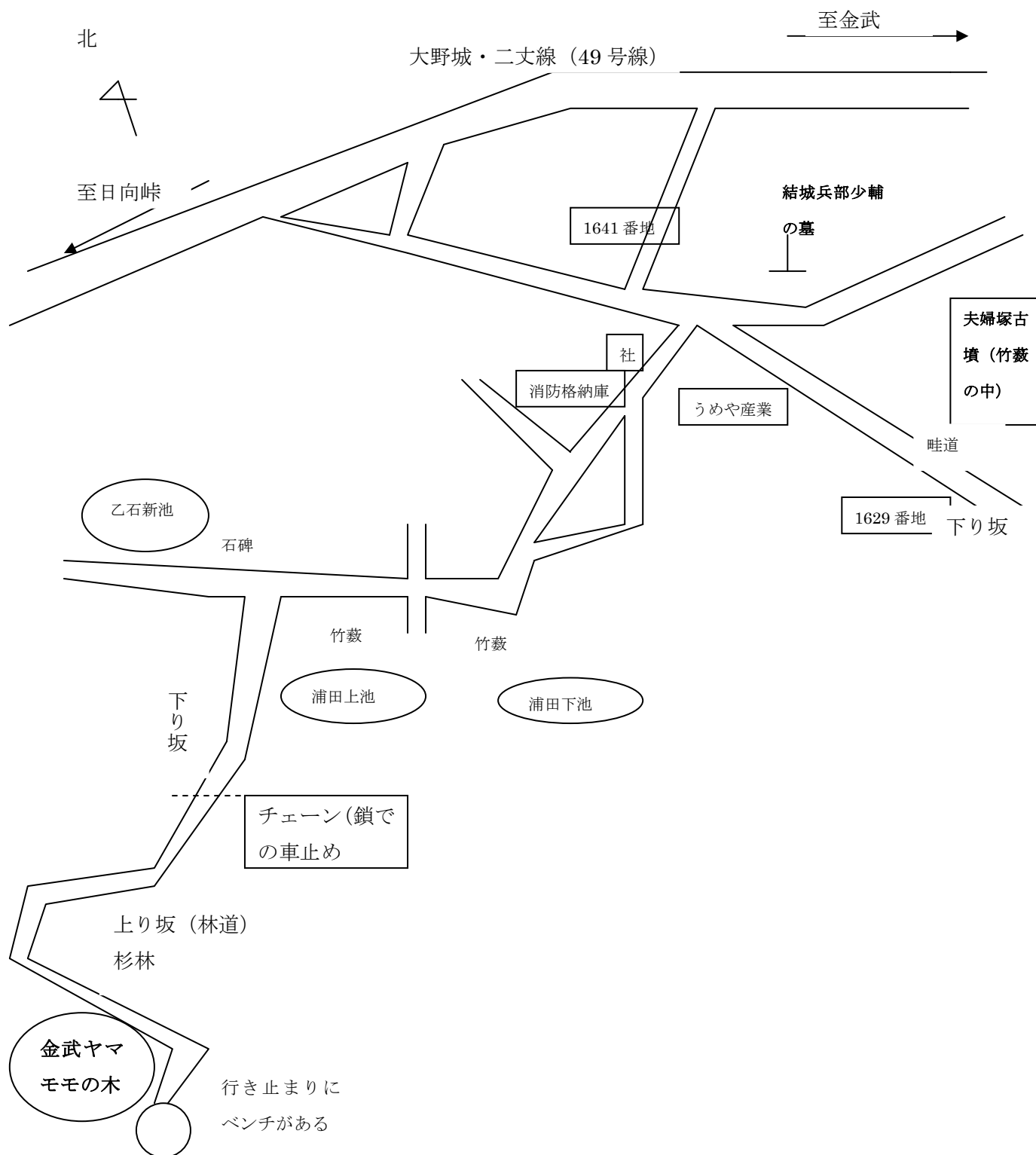
福岡市立金武中学校の玄関にある瀧田紫城の写真

5. 金武ヤマモモの木、夫婦塚古墳、結城兵部少輔の墓

金武ヤマモモの木 (西区金武 1496)

夫婦塚古墳 (西区金武 1668)

結城兵部少輔の墓 (西区金武乙石)



金武ヤマモモの木（西区金武 1496）

金武の大ヤマモモは県指定の天然記念物で、1989年の調査では樹高 15.0m、根本の周囲 4.6mの古木である。2001年の説明板では樹高 14.0m、周囲 4.4m、根回り 8.0mとなっている。いずれにしても樹齢 300年と推定されている大きな古木である。

西区地域振興事業推進委員会編者・福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社、1995年10月。



2013年の金武ヤマモモの木



2013年の金武ヤマモモの木



2001年3月当時の金武ヤマモモの木



2001年3月当時の金武ヤマモモの木

夫婦塚古墳（西区金武 1668）

夫婦塚古墳は 2 基存在していたとのことであるが、現在は 2 号墳だけが竹ヤブの中にある。石室には須恵器、鉄製品（武具、工具および馬具など）、装身具類などが出土されているとのことである。下記の写真のように、複式の横穴式石室が、南側に向いて開いている。玄室は各面 1 石ずつの巨石で組み上げられている。

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社,1995 年 10 月.44 頁.
加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.448 頁.



夫婦塚古墳



夫婦塚古墳



夫婦塚古墳



夫婦塚古墳

結城兵部少輔の墓（西区金武乙石）

乙石にある碑の説明によれば、結城兵部少輔は 1570 年代の天正年間のころに阿波国から来、安楽平城主小田部紹叱の情により、早良郡金武に居住していたとのことである。生国から阿波島大明神の分霊した山神を祭り、また禅宗西山寺を建立して結城氏の菩提寺としたとのことである。

石津司『安楽平城物語 その1』1985年12月.5～9頁.



乙石集落・夫婦塚入口



乙石集落・夫婦塚入口



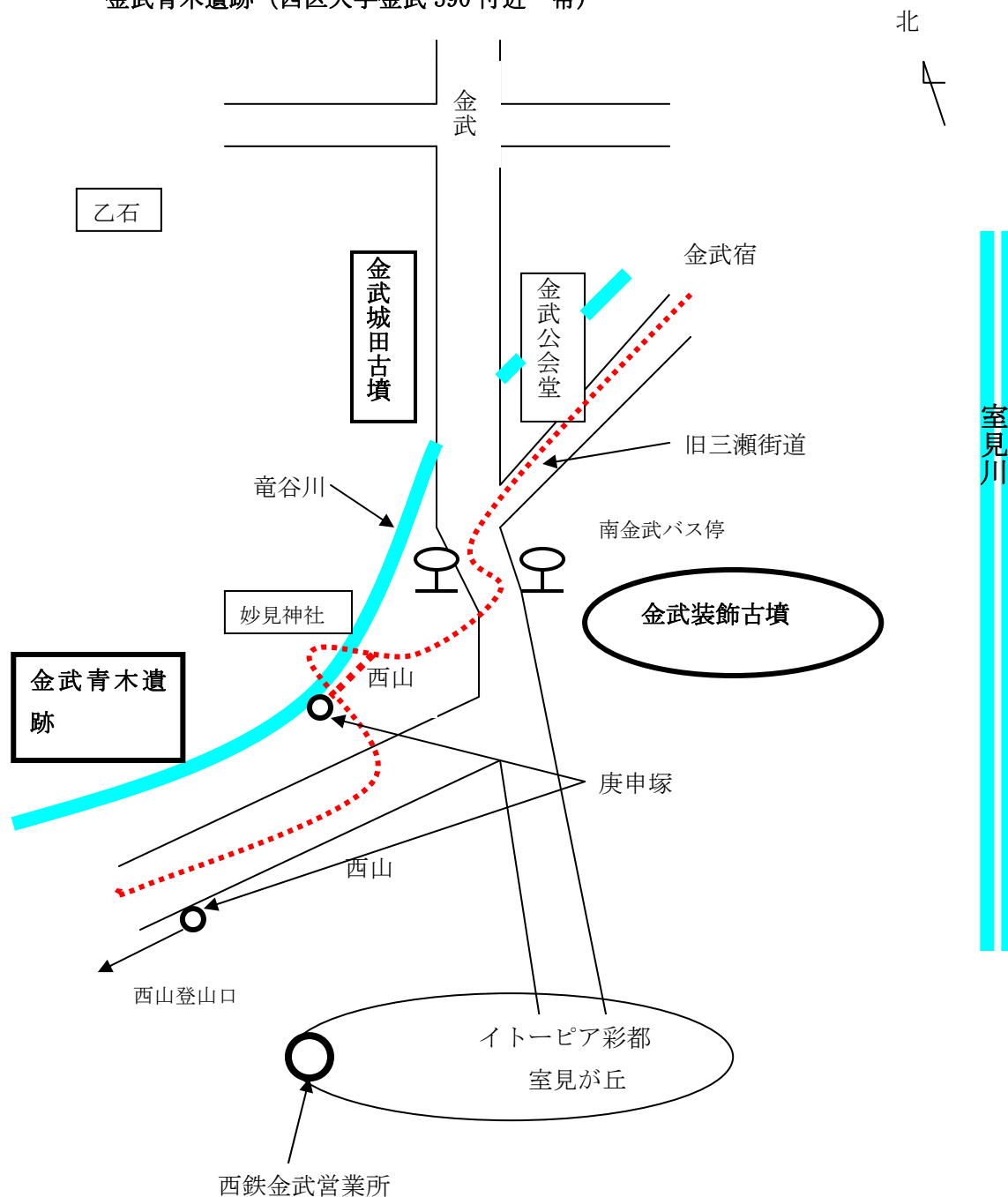
乙石集落・夫婦塚入口

6. 金武城田古墳、浦江裝飾古墳、金武青木遺跡

金武城田古墳（西区金武 1088）

浦江裝飾古墳（西区金武字大塚 833-2 他 7 筆）

金武青木遺跡（西区大字金武 590 付近一帯）



金武城田古墳（西区金武 1088）

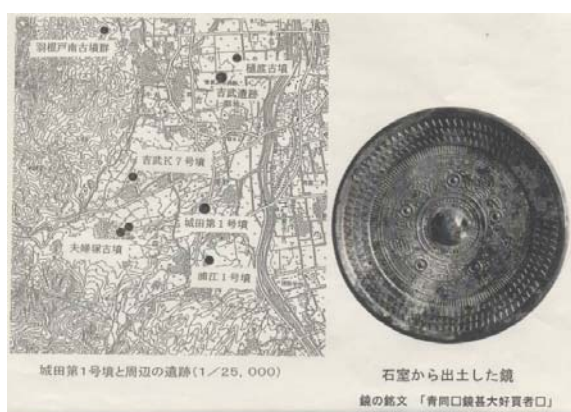
金武城田（かなたけじょうだ）古墳は約 1600 年前に造られた直径約 14m の円形古墳である。古墳の中央部は埋葬用の竪穴式石室となっている。その石室からは細線式獣帯鏡（じゅうたいきょう）、鉄釧（てつしろ：腕輪）、刀子（とうす：工具の一種）、石製小玉が出土されている。細線式獣帯鏡は約 1800 年前に中国で作られ、日本にもたらされた舶載鏡（はくさいきょう）と考えられている（福岡市教育委員会の現地説明会より）。



城田古墳（奥は金武交差点）



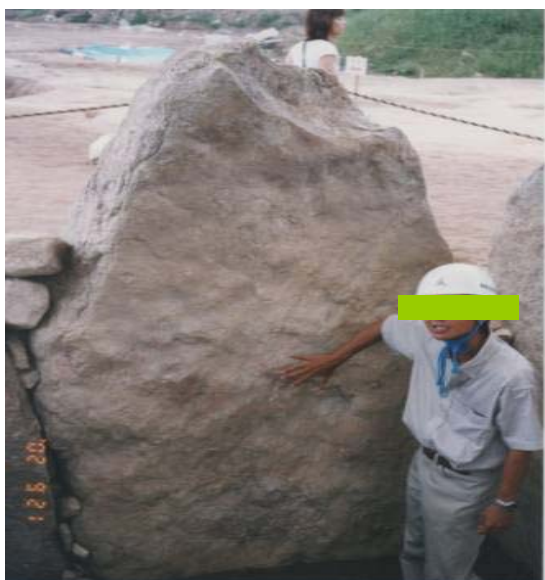
城田古墳発掘調査案内板



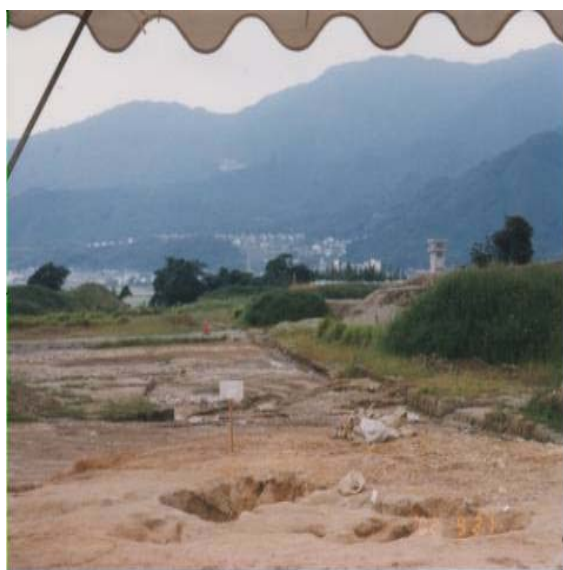
細線式獣帯鏡

浦江裝飾古墳（金武字大塚 833-2 他 7 筆）

浦江裝飾古墳は古墳時代後期から末期に形成された古墳で、埋葬施設は複室構造の横穴式石室である。石室内で須恵器・土師器のほか鏃（やじり）・刀等の製鉄工具類、轡（くつわ）等の馬具類、耳環、ガラス製装飾品などが出土されている。横穴式石室には彩色壁画で、朱色の顔料による渦巻き状の文様が確認されているが、状態は良くなく写真からは朱色しか見ることはできない（福岡市教育委員会の現地説明会より）。



説明員の指先が朱色の文様の装飾



浦江裝飾古墳全体（消防学校、油山が遠望）



装飾古墳の横穴式石室（装飾の岩あり）



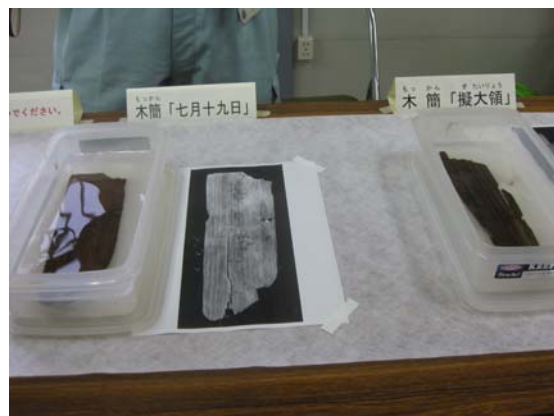
出土装飾品

金武青木遺跡（西区大字金武 590 付近一帯）

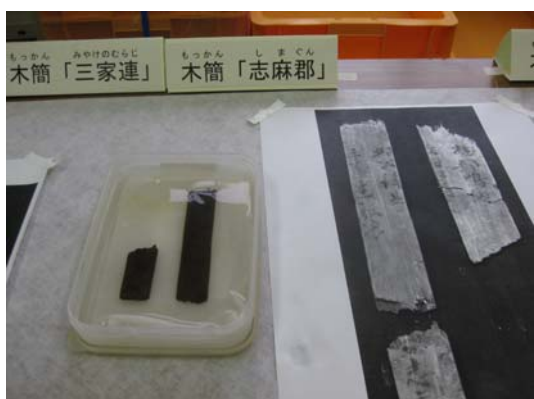
2009 年 12 月 13 日に現地説明会が福岡市教育委員会によって開かれた。説明によれば 8 世紀中頃から末期にかけて使われたとみられる建物跡と、その周辺から鉄を作った鍛冶炉跡、木簡および土器などが発掘された。奈良時代の 8 世紀は唐や朝鮮半島に対する防衛のための怡土城跡（現前原市）に近い金武青木が燃料としての原料立地として製鉄所（築城や武器製造のため）跡である。下記の写真のほかにも延暦 10 年と書かれた木簡も発掘されている。なお、延暦 10 年は西暦 791 年である。



韃の羽口（ふいごのはぐち）



木簡



木簡（三家連：筑紫の「みやけのむらじ」：古事記のなかの神武天皇の条に三家連がある。



鍛冶炉跡（かじろあと）



金武青木遺跡の発掘現場



金武青木遺跡（旧三瀬街道がみえる）

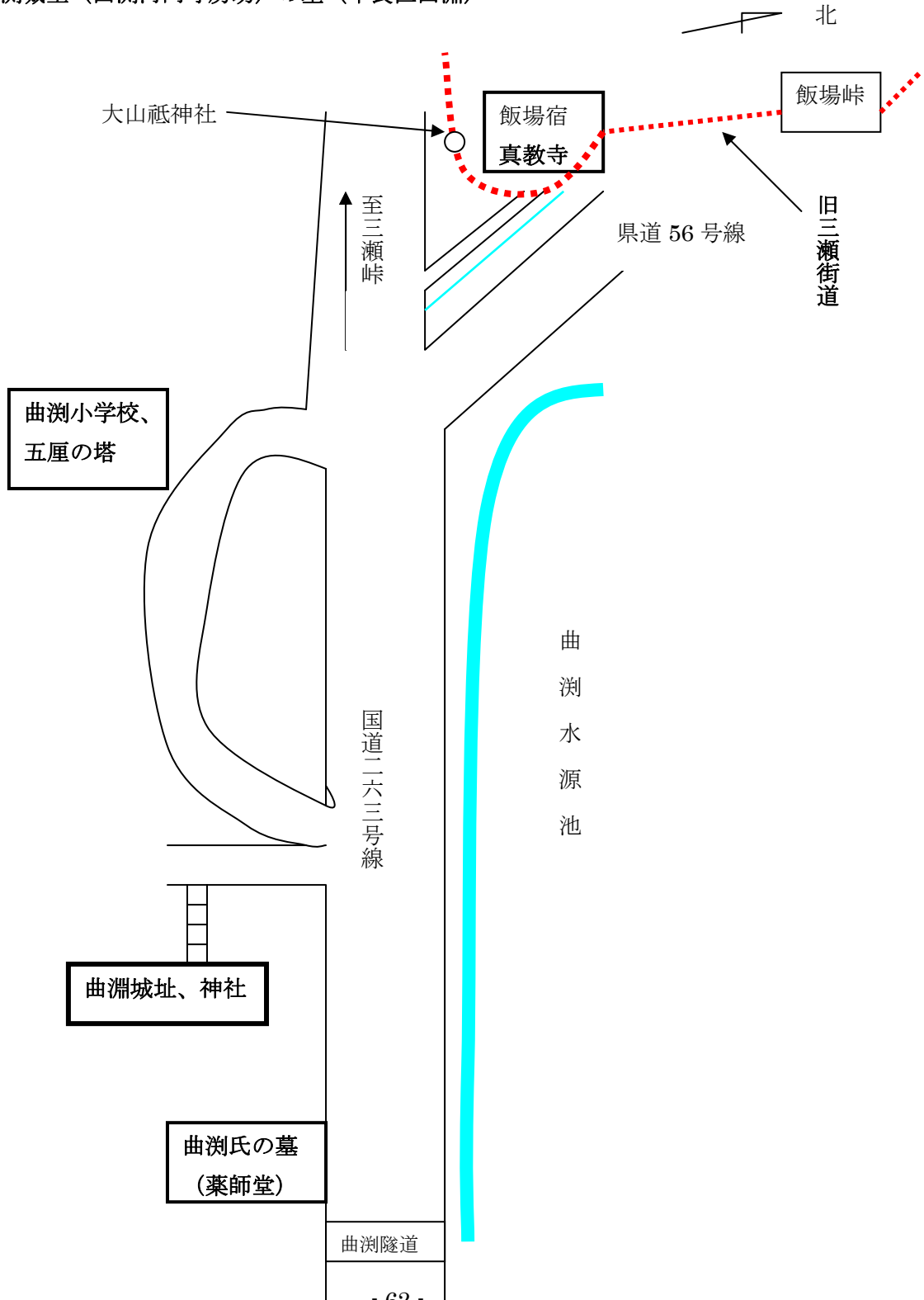
7. 真教寺、曲淵城址、曲淵神社、五輪の塔、曲淵城主の墓

真教寺（早良区大字飯場 225）

曲淵城址、曲淵神社（早良区曲淵 827-3）

五輪の塔（早良区大字曲淵 7 1 3-1 曲淵小学校敷地内）

曲淵城主（曲淵河内守房助）の墓（早良区曲淵）



真教寺（早良区大字飯場 225）

新教寺は 1511（永正 8）年寺田正玄の開祖とされている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 340 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版,1977 年 12 月.407 頁.



旧三瀬街道飯場宿の真教寺

曲淵城址、曲淵神社（早良区曲淵 827-3）

曲淵河内守房助の子である信助の居城の址である。曲淵氏は曲淵、石釜、西、金武、四箇、田、次郎丸、野芥、七隈、荒江および麓原等を領し、高祖の原田氏に属していたとのことである。曲淵神社は曲淵ダム建設にともない、1918（大正 7）年に現在地の曲淵城址に移されたとのことである。神社は 950（天曆 4）年肥後国の落人であった小国源左衛門によって建立されたといわれている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 324 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.福岡県城址一覧の 27 頁.

早良区総務部市民相談室『早良散策』早良区総務部市民相談室,1991 年 3 月. 11 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.631 頁

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版,1993 年 6 月. 529 頁.



曲淵城址説明板（曲淵山神社登り口）



曲淵城址（曲淵山神社）



五輪の塔（早良区大字曲淵7 1 3-1 曲淵小学校敷地内）

曲淵小学校に五輪の塔がある。伝説には肥後の国より小國孫右衛門という者が落来、この地で死したが、後年その孫娘が尼となり来て菩提のため、五輪の塔を建て千部の経を納めたといわれている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973年2月.後編 343~344頁.

柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社,1995年11月. 29頁.



曲淵五重石塔

曲淵城主（曲淵河内守房助）の墓（早良区曲淵）

曲淵河内守房助はもともと鍛冶屋の甚五兵衛（じんごべい）という人物であった。甚五兵衛は一夜の宿を求めた僧侶に対し、親切にして宿を提供した。お礼に高租（たかす）城の殿様に書状を渡すようにいわれ渡したところ、甚五兵衛は高租城主から認められ城主となり、早良の曲淵、石釜、西、金武、四箇、田、次郎丸、野芥、七隈、荒江および亀原等を治めた。この僧侶は西明寺入道時頼（鎌倉幕府第五代執権であった北條時頼の出家後の名）という高僧であった。なお、執権は朝廷によって用いられた語である。

しかし、荒平城主小田部鎮元は高租城主原田氏と敵対関係にあったため、曲淵氏も敵になり小田部氏に攻められた。曲淵氏は肥前の龍造寺隆信を頼っている。曲淵氏は豊臣秀吉の九州平定の折、高租城落城とともに、曲淵城も落城し浪人になったといわれている。下記の写真の場所は曲淵氏の菩提寺であった医王山長福寺跡で、国道 263 号線の三瀬峠に向って曲淵隧道（まがりぶちずいどう：トンネル）を出たすぐの左側にある薬師堂がそれである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版，1973年2月．342頁．

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社，1995年4月．243～244頁．



曲瀨河地守房助の墓



曲瀨河地守房助の墓
(墓の後ろに見えるのが薬師堂:その前が国道263号線)

第Ⅲ部の参考文献

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版，1993年6月。

福岡県早良郡役所『早良郡史』名著出版，1973年2月。

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社，1995年4月。

石津司『荒楽平城物語 その1』1985年12月。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版，2001年6月。

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を詠む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版，1977年12月。

西区地域振興事業推進委員会編著・福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社，1995年10月。

早良区総務部市民相談室『早良散策』早良区総務部市民相談室，1991年3月。

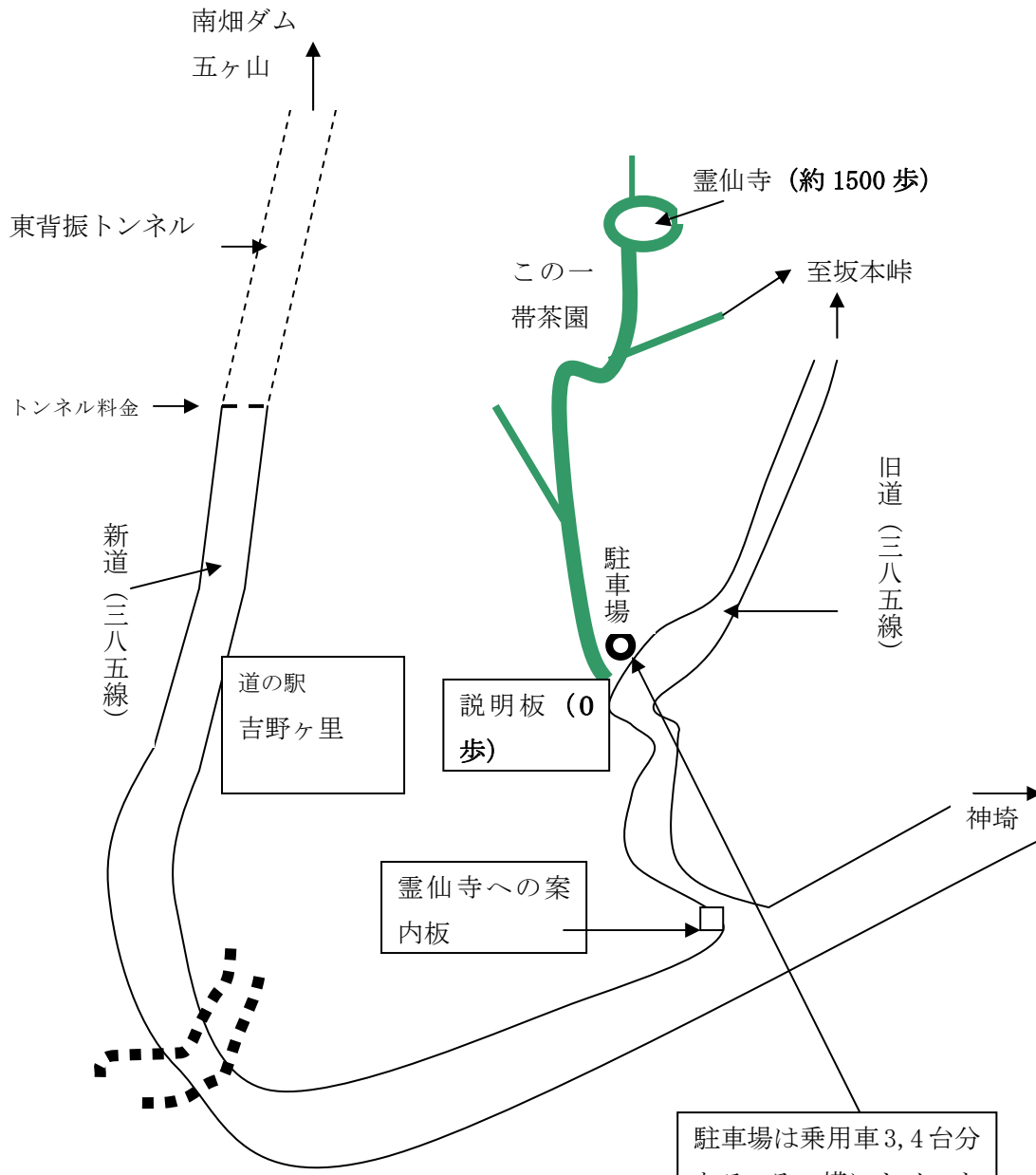
柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社，1995年11月。

第Ⅳ部 伊能忠敬一行が測量したもう一つの街道

伊能忠敬一行が那珂川町から肥前へ通じる旧道を測量した街道として、筑前街道がある。佐久間達夫校訂伊能忠敬『測量日記 第四巻』(九州第二次の一)においては、前述のように、伊能忠敬一行は9月26日に2手に分かれ、川上泊→27日、西松瀬山村泊→28日、三ツ瀬(三瀬)村泊→29日、曲渕村泊→30日、田村泊、10月1・2日、博多泊とのことであった。もう一行の隊は26日、小城町出立、神崎駅泊→27日、坂本村泊→28日、五箇山村泊→29日、市瀬村泊→30日、片縄泊→10月1日、博多呉服町泊(18~19頁)とのことであった。すなわち、2手に分かれての測量隊は博多で合流している。『測量日記 第五巻』(九州第二次の二)では、上記の三瀬超えルートと坂本峠超えルートの気象状況、時刻、村や宿泊先などの状況、産物などの記述が詳細になされている(426~430頁)。上記ルートをより詳しく示せば、26日、小城町出立、神崎駅泊→27日、神崎郡田手村・大塚経由坂本村泊→28日、筑前福岡道の坂本峠(脊振峠)の坂本村泊、→29日、五箇山村泊(坂本峠や五箇山村や福岡道などの測量を行っている)五箇山村・亀ノ尾峠経由市瀬村泊→30日、市瀬・埋金村・古城跡猫峠城・山田村・伏見宮・安德帝岩戸皇居・裂田溝・別所村・安德村・安德台・西隈村・道善村・恵子を経由して方縄泊→10月1日、方縄・老司村・野多目村・三宅村・若宮八幡宮・塩原村・野間村・高宮村・平尾村・上人橋・福岡市中紺屋町・薬院町、佐嘉掘(城の外堀)・万町を経由して博多呉服町着との記述である。

以下は、坂本峠近くの栄西禅師が茶の栽培を始めておこなったとされている「靈仙寺(りょうせんじ)」のルートと写真である。

お茶栽培発祥地の碑：霊仙寺（佐賀県神埼郡東背振：筑前街道）



駐車場から霊仙寺では、案内板もあり、よく整備された山道である。この山道は歩きやすいように階段を整備され、また木のチップを敷き詰めてある。しかし、山道であるので勾配は出発地から霊仙寺まで続く。出発地から霊仙寺までは約 1500 歩であった。霊仙寺のさらなる上には僧坊跡があり、栄西の住居跡もある。

駐車場は乗用車 3, 4 台分がある。その横にトイレもある。



駐車場横の霊仙寺入口にある説明板



駐車場横の霊仙寺入口にある説明板



説明板から少し登った所からの旧道 (385 線)



登り階段



登り階段



石塔



最初の分岐 (右へ)



登り階段



つぎの分岐 (左上へ)



分岐の説明板



分岐傍の茶園



茶園の茶の実と花



靈仙寺



靈仙寺



靈仙寺境内の茶園説明板



靈仙寺境内にある日本最初の茶栽培発祥地の碑



靈仙寺境内から「道の駅 吉野ヶ里」遠望



茶園

第Ⅳの参考文献

佐久間達夫校訂伊能忠敬『測量日記 第四巻』（九州第二次の一）大空社，1998年6月．

佐久間達夫校訂伊能忠敬『測量日記 第五巻』（九州第二次の二）大空社，1998年6月．

おわりに

旧早良郡（現在の福岡市早良区、西区および城南区）には旧早良街道、太閤道、宰府道旧唐津街道および旧三瀬街道が存在していました。そのなかでも旧唐津街道および旧三瀬街道は宿場町を有していました。そうした旧街道沿いには史跡・名勝が多く存在しています。

旧早良街道周辺には西新炭鋳、匏原炭鋳、鳥飼炭鋳、匏原山の元寇跡、梅林古墳、野芥の櫛田神社、灰塚古墳、縁切り地蔵、土生長者の墓、農業指導者林遠里と伊佐次八郎、正覚寺跡、茶臼城址、椿水路、松ヶ根の井、菟道岳城址、荒平城址、主基斎田の跡、栄西茶碑、池田大日堂、大教坊の墓および池田城址などがあります。この街道は、主として、菅原道真、荒平と龍造寺の合戦関連、農業・鋳業の産業などの遺産や遺構であります。

太閤道周辺には福豊炭鋳（田島炭鋳、樋井川炭鋳というケースもある）、埴安神社（金子堅太郎生誕地の碑と神社扁額に元寇の塩屋の松）および忘帰台（末永文化センター内）などがあります。西区の太閤道周辺では旧唐津街道の遺跡と重複しています。

旧唐津街道周辺には西新炭鋳、匏原炭鋳、高取焼、官公腰掛の石、塩田跡、九州探題跡、中隈山城址、姪浜炭鋳、北筑軌道および壱岐神社などがあります。この街道は、主として、探題時代、参勤交代としての役割、塩田や炭鋳の産業などの遺産や遺構であります。

宰府道には荒平城址とその関連遺跡、横山神社、宇賀神社、船石、大山祇神社および笠掛天神森など菅原道真関連の遺跡があります。

本書の第Ⅰ部～第Ⅲ部に記載していますように、旧三瀬街道は高取焼、松尾大膳の碑、堀内城址（月城址）、橋本神社と宇賀神社、吉武高木遺跡、飯盛神社、飯盛城址、瀧田紫城の折衷塾跡、日向峠、夫婦塚古墳、結城兵部少輔の墓、金武城田古墳、浦江装飾古墳、金武青木遺跡、飯場峠、曲淵城址、曲淵神社、五輪の塔、曲淵城主の墓、糸島峠、国境石および三瀬峠などがあります。

このように各街道や道とその周辺にはそれぞれの特徴がありますが、旧三瀬街道の金武

宿周辺には多くの古墳が存在しています。また、金武から乙石方面には日向峠がありその先は『魏志倭人伝』に見える伊都国であります。伊都国の平原（ひらばる）遺跡の大女王の木棺は日向峠の太陽が昇ってくる方向に向いているとのことでもあります。旧三瀬街道は金武青木遺跡の出土品からも見えるように伊都国との結びつきがあるものと考えられます。旧三瀬街道の飯場峠は文献上から当時の重要な交通の要衝であったと考えられます。曲淵城主の領地が曲淵、石釜、西、金武、四箇、田、次郎丸、野芥、七隈、荒江および麓原等ということで、飯場峠を經由して出向いていたと推察できます。この旧三瀬街道も荒平と龍造寺の合戦関連はありますが、早良において他の街道や道とは異なり、「古」の時代から人々の交通の要衝であったと理解することができます。

全体的な参考文献

- アクロス福岡文化誌編纂委員会編『アクロス福岡文化誌 1 街道と宿場町』海鳥社、2007年2月。
- 青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版、1993年6月。
- 福岡市教育委員会「筑前国福岡城三ノ丸 御鷹屋敷（図録編）」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』、第59集、1990. 1～52頁。
- 福岡市教育委員会「筑前国福岡城三ノ丸 御鷹屋敷」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』、第59集、1990. 1～16頁。
- 福岡市水道局『福岡市水道五十年史』1975年6月。
- 福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版、1973年2月。
- 福岡人文社『福岡市 都市圏 まちず』福岡人文社、2005年10月。
- 福岡地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社、2005年12月。
- 久松真一校訂解題『南方録』淡交社、1975年5月。
- 廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社、1995年4月。
- 貝原益軒編・伊東尾四郎校訂『筑前國續風土記』文献出版、2001年6月。
- 加藤一純・鷹取周成共編・川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版、1977年12月。
- 金武まちづくり協議会『金武平成風土記』金武まちづくり協議会、2004年3月。
- 川島悦子著『伊能図で甦る古の夢 長崎街道』株式会社前輪プリンティックス、1997年3月。

- 人文社『江戸末期 筑前國圖（復刻古地図）』株式会社人文社，出版年不明。
- 丸山雍成・長洋一編『街道の日本史 48 博多・福岡と西街道』吉川弘文館，2004年2月。
- 三瀬村誌編纂委員会『三瀬村誌』三瀬村，1977年3月。
- 宮崎克則・福岡アーカイブ研究会編『古地図の中の福岡・博多—1800年頃の町並み—』海鳥者，2005年12月。
- 西区地域振興事業推進委員会編者・福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド 西区は歴史の博物館』海鳥社，1995年10月。
- 西日本新聞トップクリエ編、調福男・淵浩子著『博学博多 200 増補改訂版』西日本新聞社，2014年3月。
- 西日本文化協会編纂『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌（六）』福岡県，1995年3月。
- 奥村玉蘭著・田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版，1985年12月。
- 奥村武「筑前国黒田藩高取焼窯の移動と変遷について」『大塚薬報 No. 322 別刷』，出版年不明。
- 奥村武「高取焼と奥村次八郎」『荒津文化』第2号，1972年7月。
- 尾崎直人『筑前高取焼の研究—筑前焼から高取焼への変容と展開—』公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団，2014年3月。
- 佐賀県神埼郡東背振村教育委員会『東脊振村全図（村史資料編）』西日本地図出版株式会社，1982年。
- 佐久間達夫校訂伊能忠敬『測量日記 第四巻』（九州第二次の一）大空社，1998年6月。
- 佐久間達夫校訂伊能忠敬『測量日記 第五巻』（九州第二次の二）大空社，1998年6月。
- 須恵町誌編集委員会『須恵町誌』須恵町役場，1983年3月。
- 白石悌三著「佐賀県 三瀬峠」（井手孫六編『新装版 日本百名峠』）株式会社メディアハウス，1999年8月。
- 田中啓爾序・金尾宗平著『風土と生活 福岡縣地誌』刀江書院刊，1935年7月。
- 山口津『福岡市 有田郷土史』有田歴史研究会，1973年8月。
- 三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 改訂新版』三省堂，1999年10月。
- 新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社，1995年5月。
- 柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社，1995年11月。
- 柳猛直『福岡歴史探訪 西区編』海鳥社，1995年6月。
- 吉田修一『悪人』（上・下）朝日文庫，2009年9月。

[著者紹介]

内山 敏典（うちやま としのり）

現在、九州産業大学経済学部教授、九州産業大学大学院経済・ビジネス研究科教授

専攻：統計学, 計量経済学

担当科目：統計学, 計量経済学およびゼミナール科目（学部）

経済・経営統計, 経済学演習, 統計・計量研究, 経済課題研究, 統計・計量
セミナー（大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程）, 柿右衛門特論（大
学院芸術研究科博士前期課程造形表現専攻）

計量経済学特別研究, 計量経済学論文演習（大学院経済・ビジネス研究科博士後
期課程）

経済学修士

博士（農学）

主要著書

『アンケート調査に基づく専門教育科目の授業効果分析』（共著）九州大学出版会, 1989
年.

『消費需要の計量的分析—食肉消費を事例として—』（単著）晃洋書房, 1992 年.

『間接税改革の国際比較』（共著）九州大学出版会, 1993 年.

『統計解析技法』（単著）晃洋書房, 1993 年.

『消費構造の変容とその統計的分析』（単著）晃洋書房, 1995 年.

『余暇関連財需要の計量的分析』（単著）晃洋書房, 1998 年.

『増補 統計解析技法』（単著）晃洋書房, 1998 年.

『計量分析のための統計解析技法』（単著）晃洋書房, 2002 年.

『早良逍遥マップ記—歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ—』（単著）城島印刷, 2003 年.

『看護統計テクニク—基本からパス分析まで—』（監修）医歯薬出版, 2003 年.

『続 早良逍遥マップ記—鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ—』（単著）城島印刷, 2005 年.

『トピックス統計解析技法—電卓, Excel および VBA における計算法—』（単著）晃洋書
房, 2006 年.

『基本計量経済学』（共著）勁草書房, 2006 年.

『経済・心理・医療・看護等の教育のためのベーシック統計解析技法—電卓, Excel およ
VBA における計算法—』（単著）晃洋書房, 2008 年.

『福岡都市圏歴史散策マップ記』（単著）九州産業大学産学連携室, 2009 年.

『有田・伊万里および福岡地域における消費者の意識調査分析—新しい陶磁器需要創造
および生産構造をめざして—』（共著）九州産業大学柿右衛門様式陶芸研
究センター, 2009 年.

『福岡（筑前）およびその関連地域の歴史散策マップ記—とくに高取焼および元寇を例

とした「まちおこし」のための文化・歴史について一』（単著）九州産業
大学産学連携室，2011年。

『柿右衛門様式学—“やきもの”の技法と歴史及び美一』（共著）九州産業大学柿右衛門
様式陶芸研究センター，2011年。

『統計解析の基礎—データ解析の基本と実践—』（単著）晃洋書房，2015年。
など、著書および専門論文・COE論文多数。

旧三瀬街道とその周辺逍遙マップ記
—伊能忠敬一行の測量から200年を経過して—

2015年〇月〇日 初版発行

著 者 内山 敏典

発行 九州産業大学産学連携室

〒813-8503 福岡市東区松香台2丁目3番1号

TEL 092 (673) 5466

印刷・製本 ○○株式会社

〒〇—〇 ○〇〇 ○〇

TEL 〇 (〇) 〇 Fax 〇 (〇) 〇 Mail ○〇

非売品

© Toshinori Uchiyama